

# 医学生の学力低下問題に関する アンケート調査結果 2013年

- アンケート対象：  
全国国公立医科大学(医学部)80校  
医学部長あるいは教育担当責任者
- 調査対象期間：  
2012年4月～2013年4月 在籍学生

(参考)

(過去第一回調査：2005年4月～2010年4月)

(過去第二回調査：2010年4月～2012年4月)

# 医学生の学力低下の背景

- 18歳人口の減少
- 小中高校のカリキュラムの変化  
(ゆとり教育の影響)
- H20年以降の医学部定員の急激な増加
- 指導教員の不足

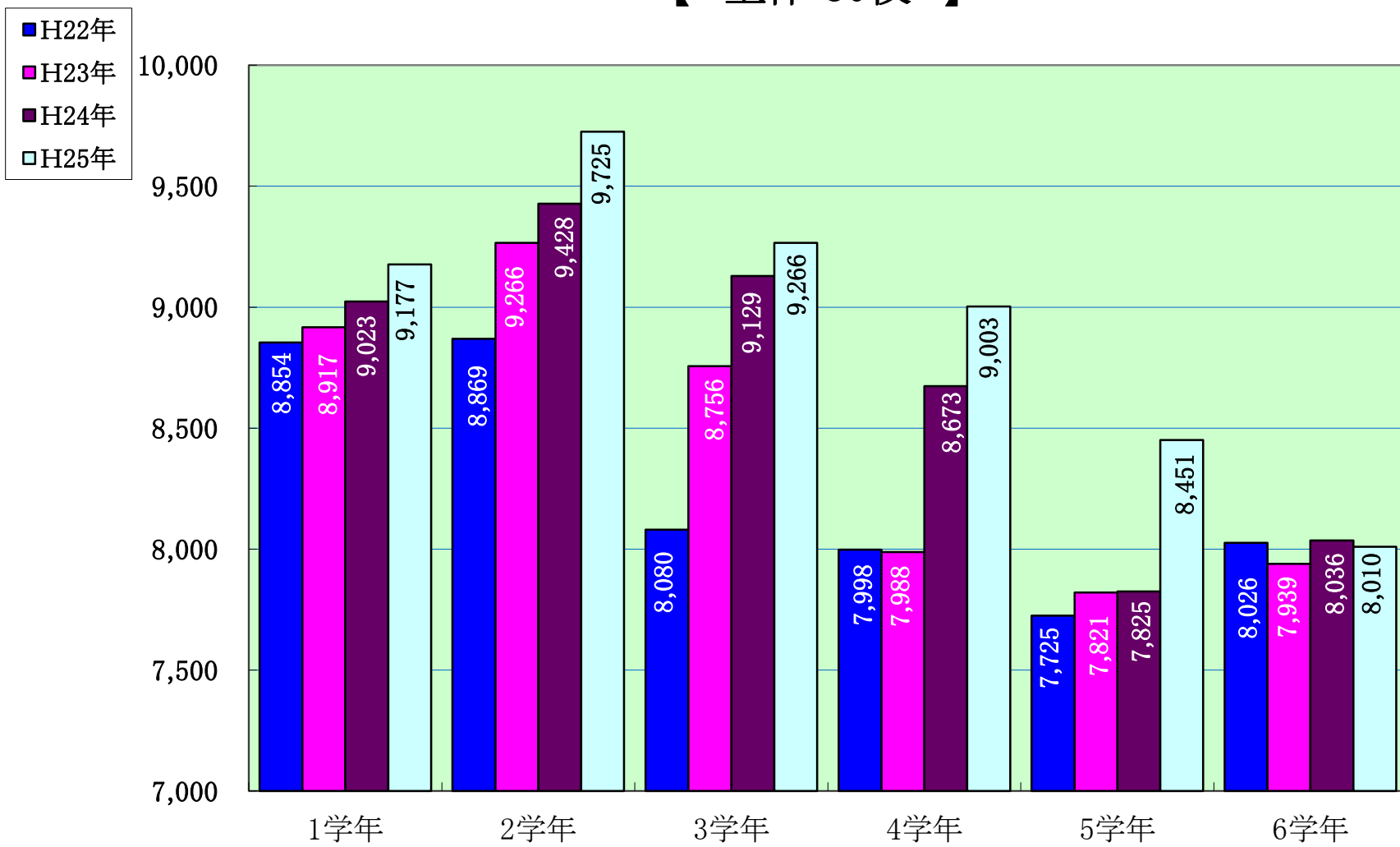
(参考)

## 過去6年間の医学部入学定員の推移

	入学定員	増員数	(累計増員数)
H19年	7,625名 (抑制時)	—	—
H20年	7,793名	+ 168	(+ 168)
H21年	8,486名	+ 693	(+ 861)
H22年	8,846名	+ 360	(+ 1,221)
H23年	8,923名	+ 77	(+ 1,298)
H24年	8,991名	+ 68	(+ 1,366)
H25年	9,041名	+ 50	(+ 1,416)

# 在学学生数の推移 (H22～H25年)

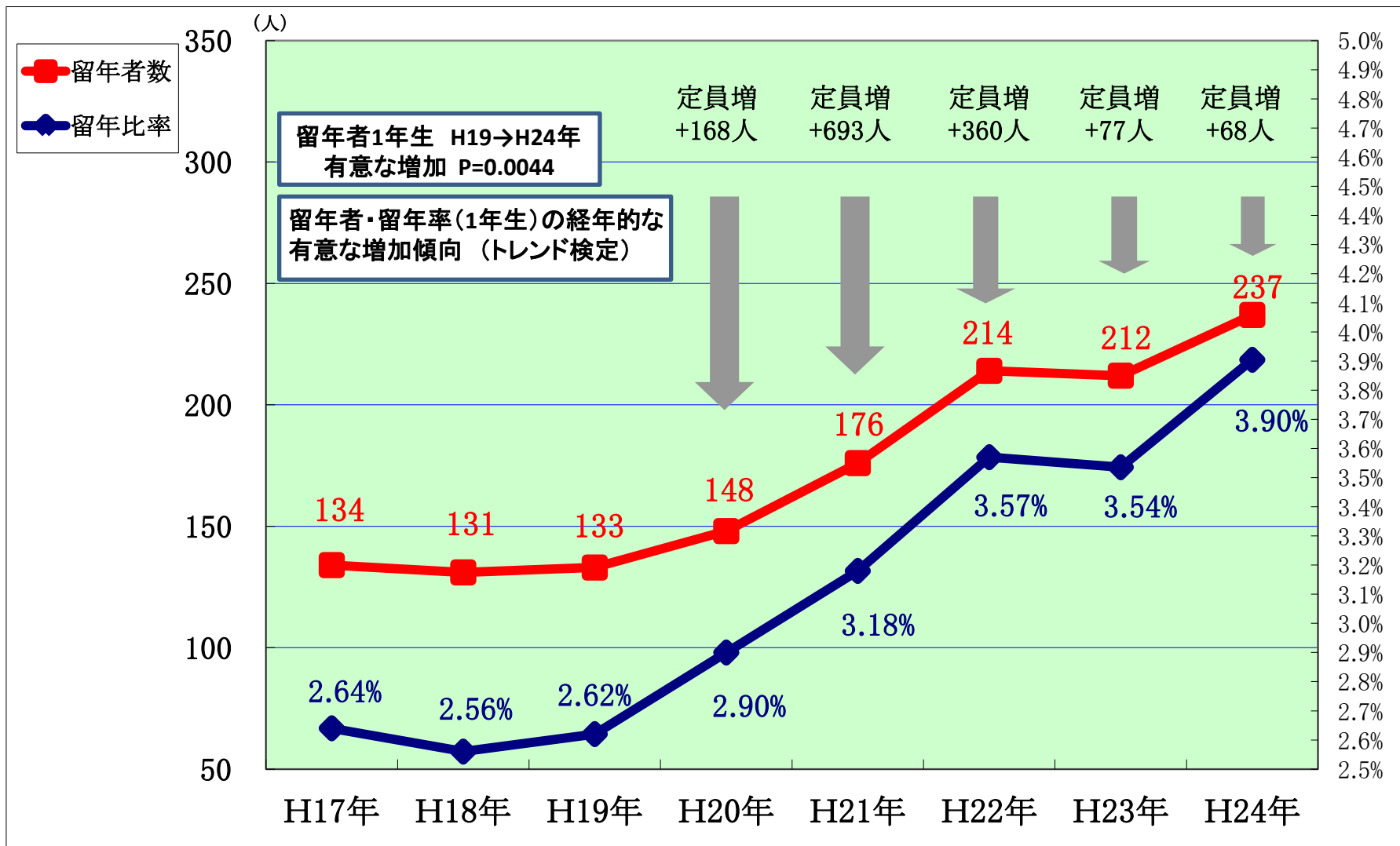
【 全体 80校 】



# 留年者1年生

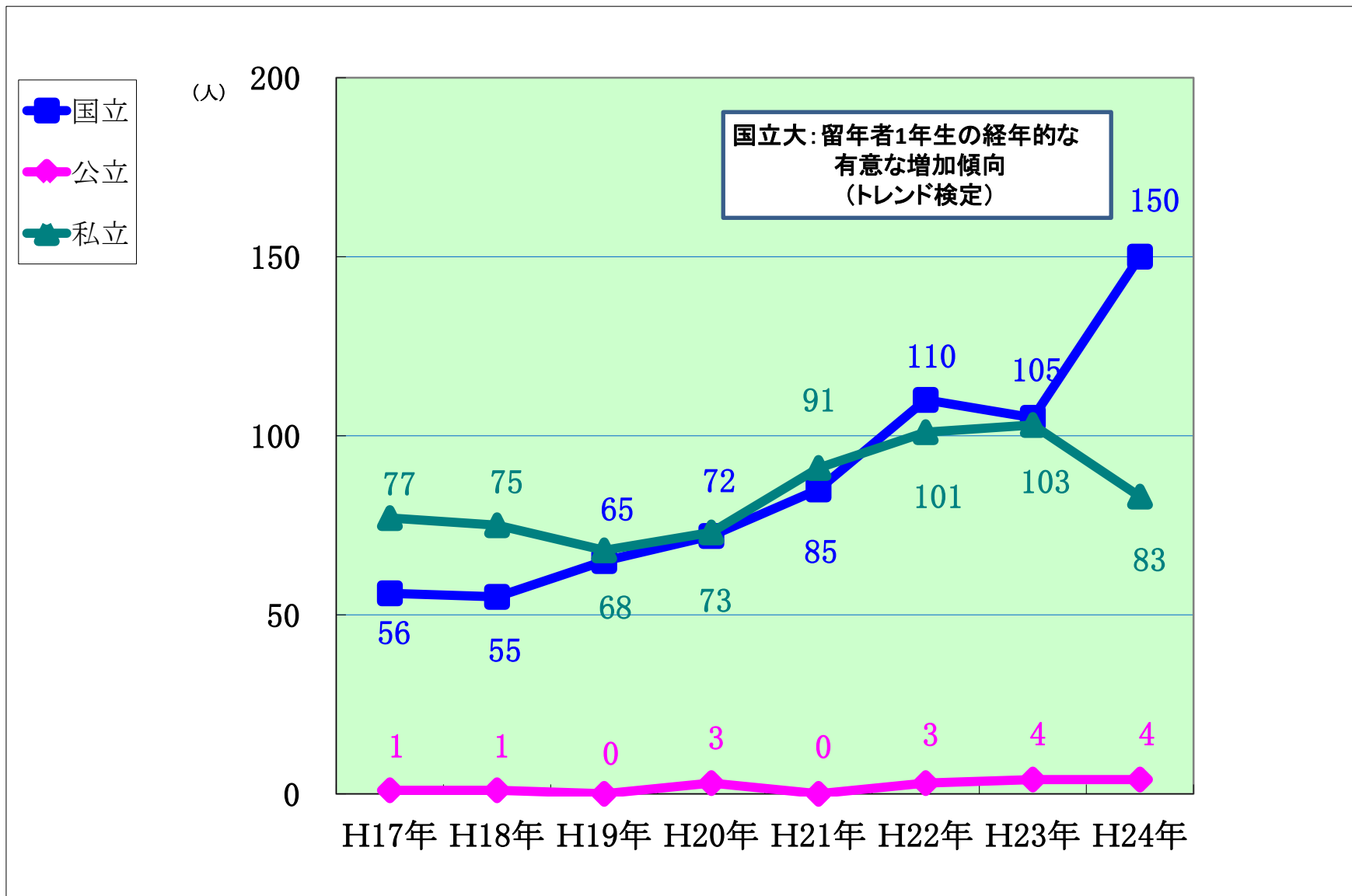
53大学 (国立30校 公立2校 私立21校)

(連続データのある大学のみ)



(参考) 定員増に比例した予測増加率(H19年を基準) 2.62% 2.68% 2.91% 3.04% 3.07% 3.09%

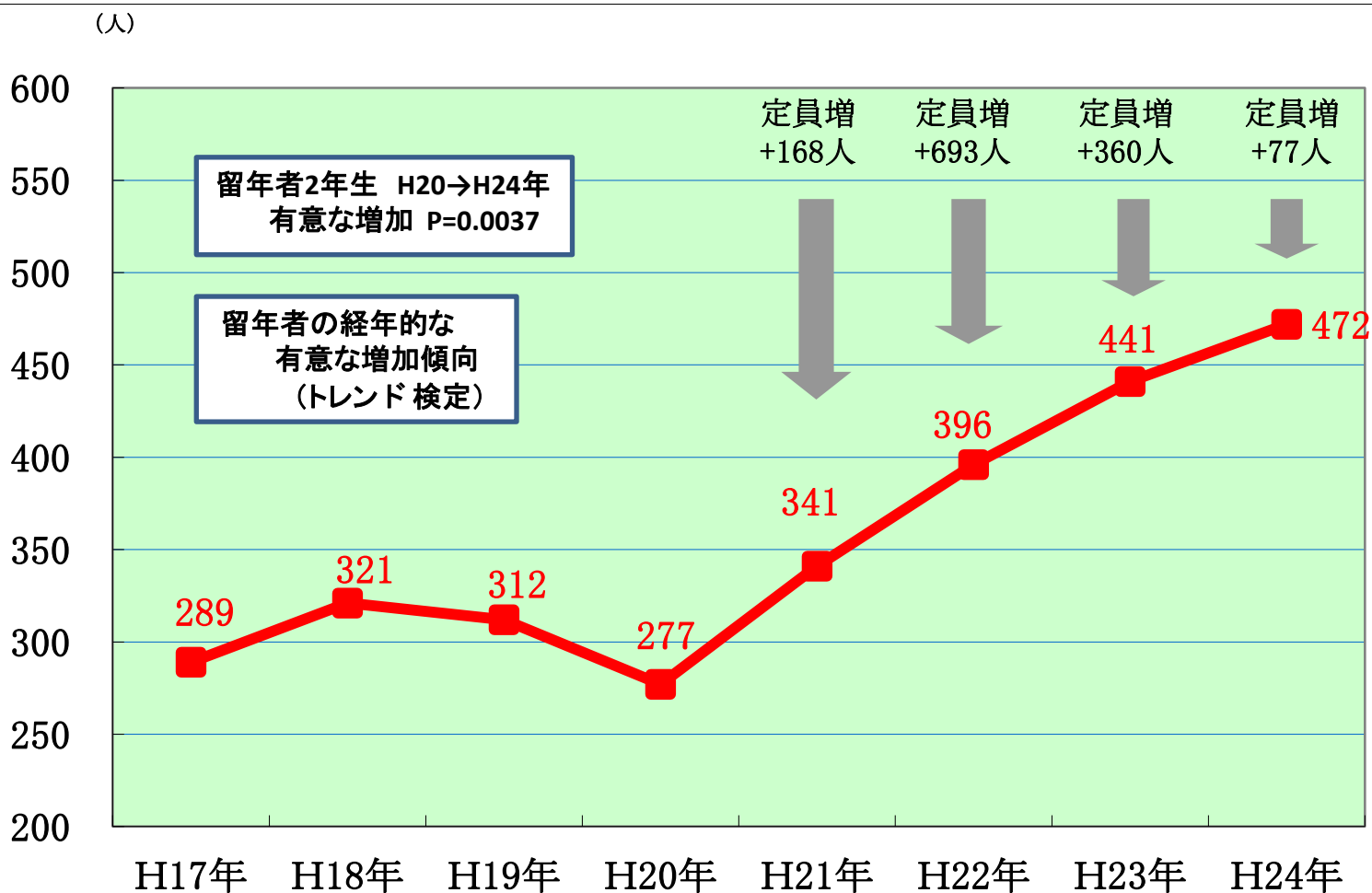
# 留年者1年生 学校種別



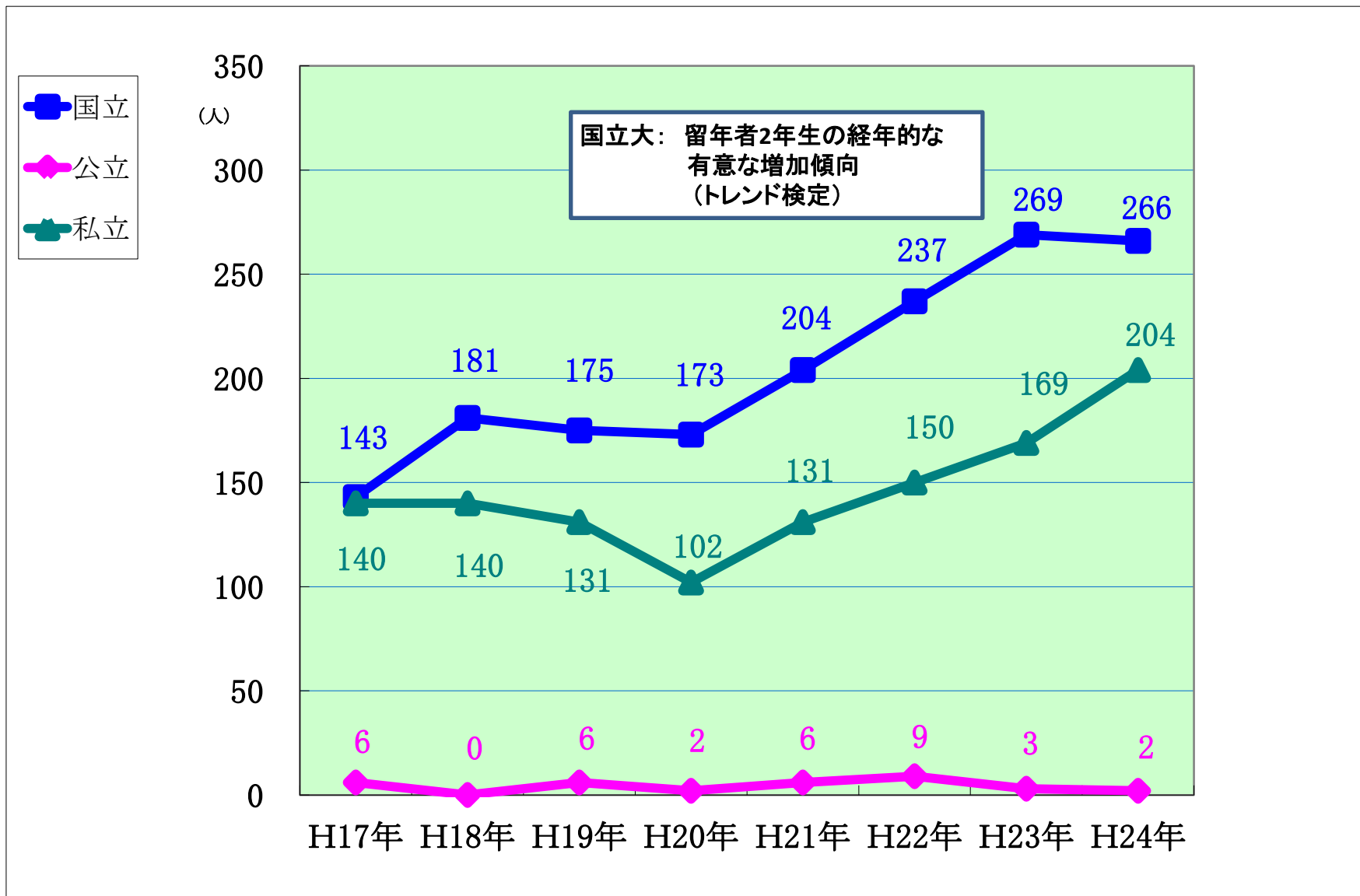
# 留年者2年生

53大学（国立30校 公立2校 私立21校）

（連続データのある大学のみ）



# 留年者2年生 学校種別

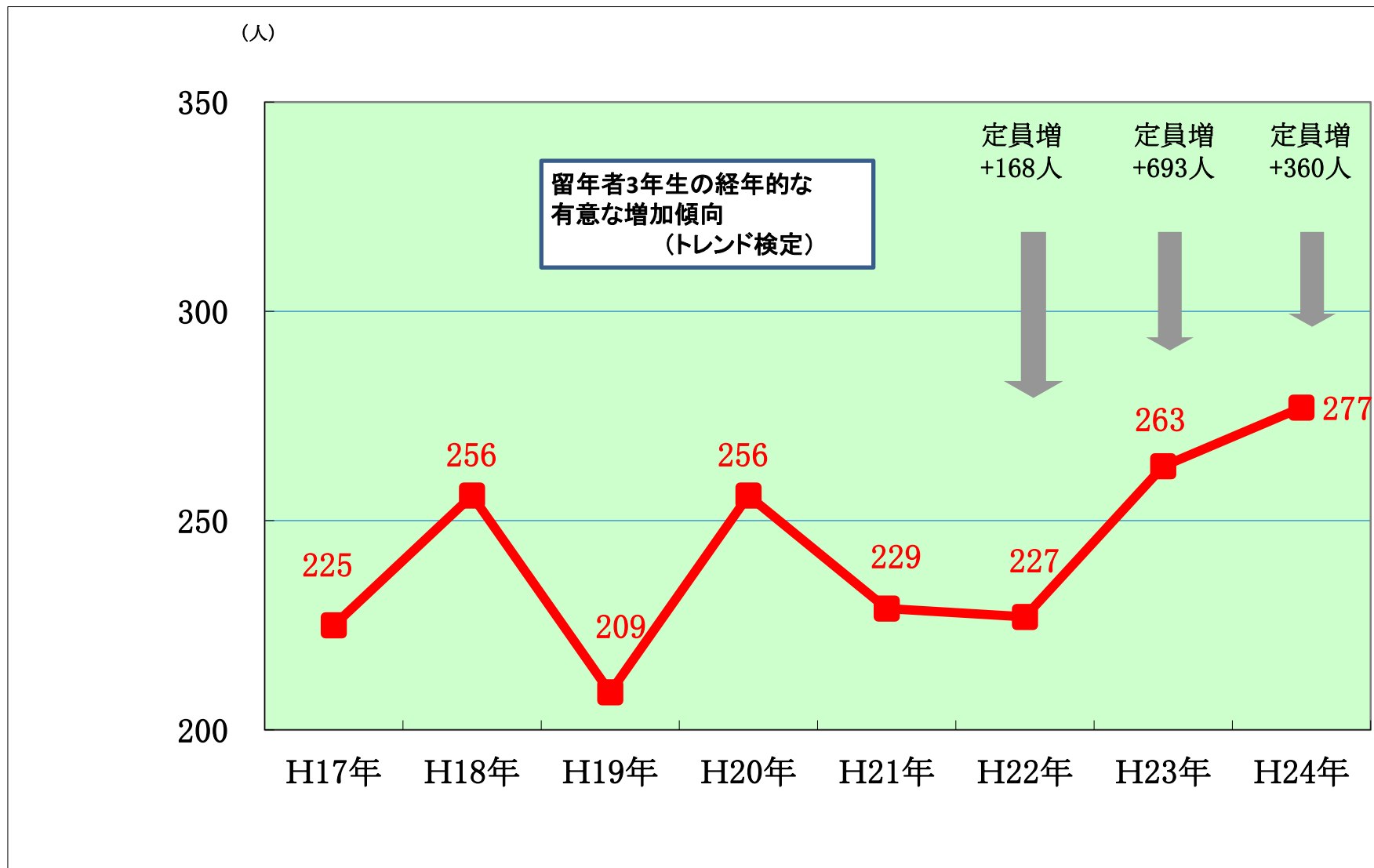




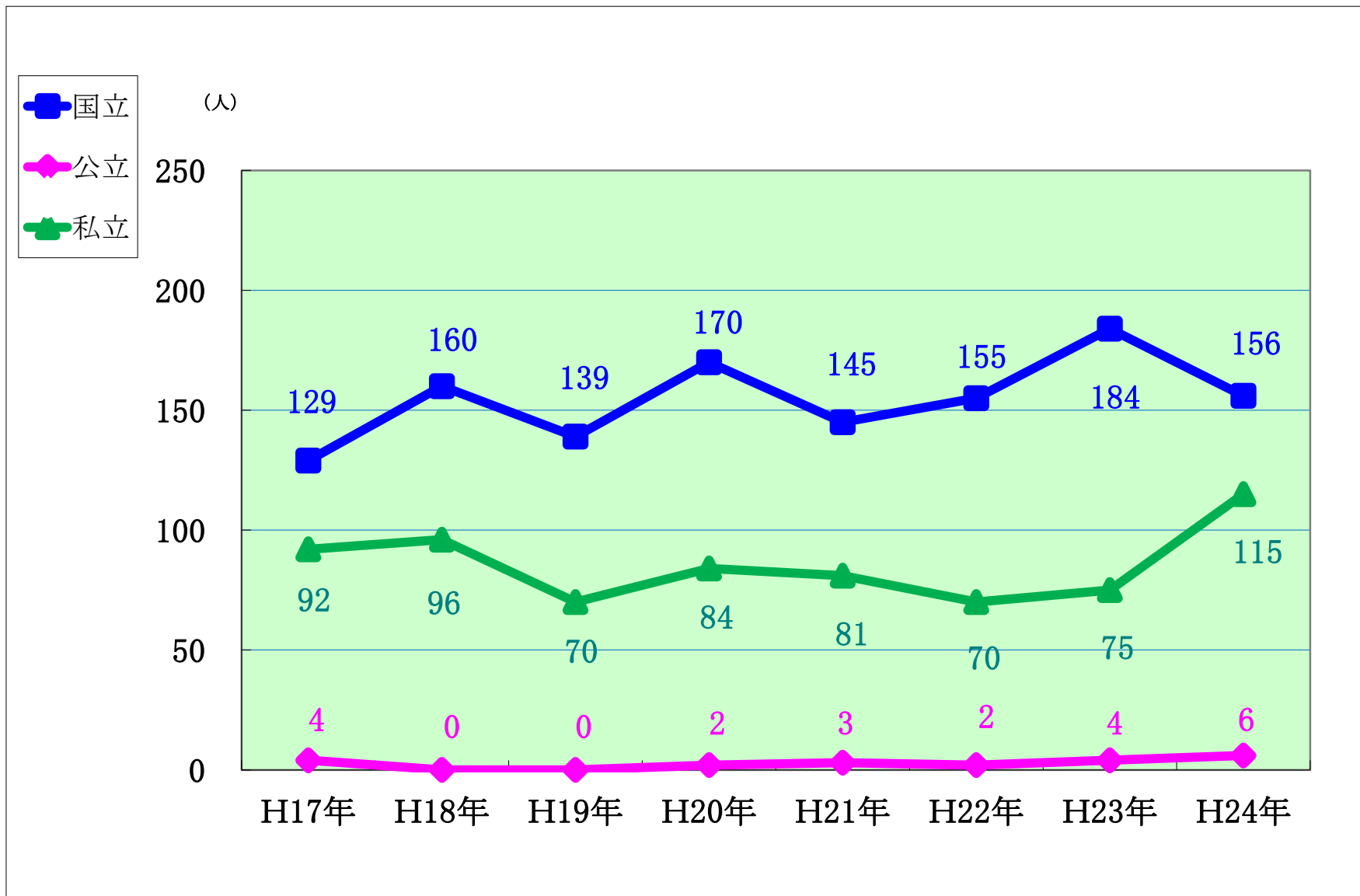
# 留年者3年生

53大学（国立30校 公立2校 私立21校）

（連続データのある大学のみ）



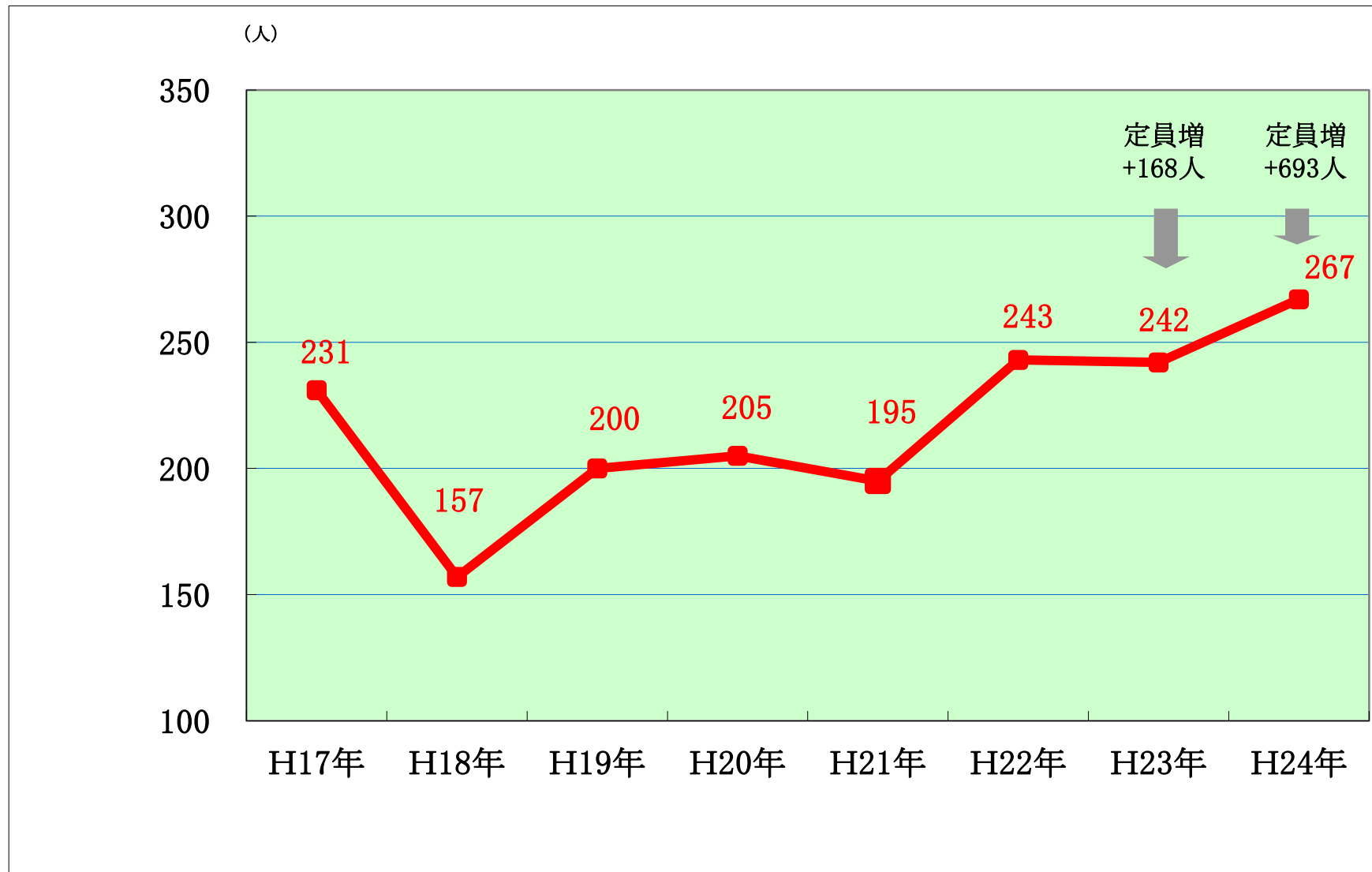
# 留年者3年生 学校種別



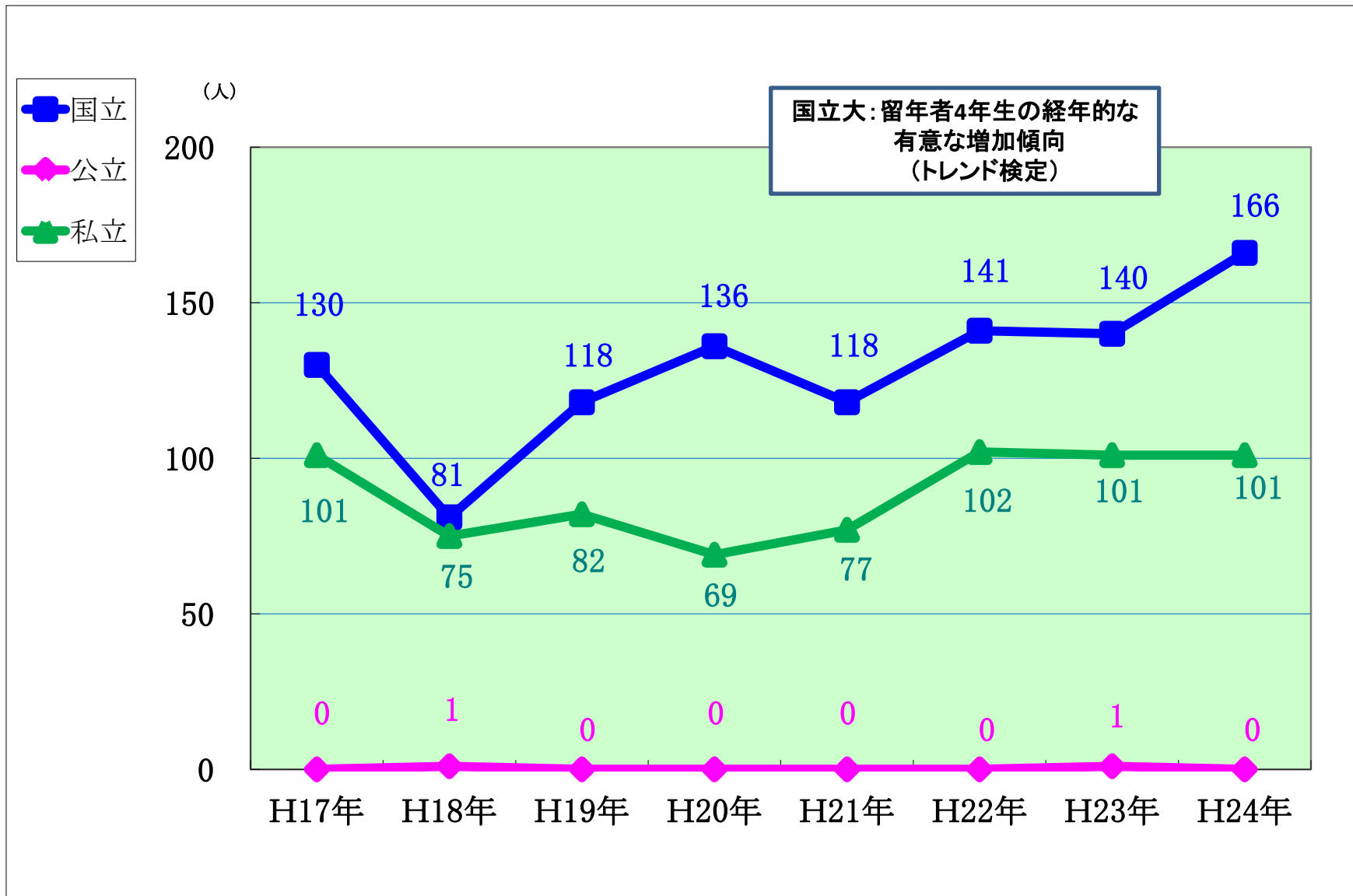
# 留年者 4 年生

53大学 (国立30校 公立2校 私立21校)

(連続データのある大学のみ)



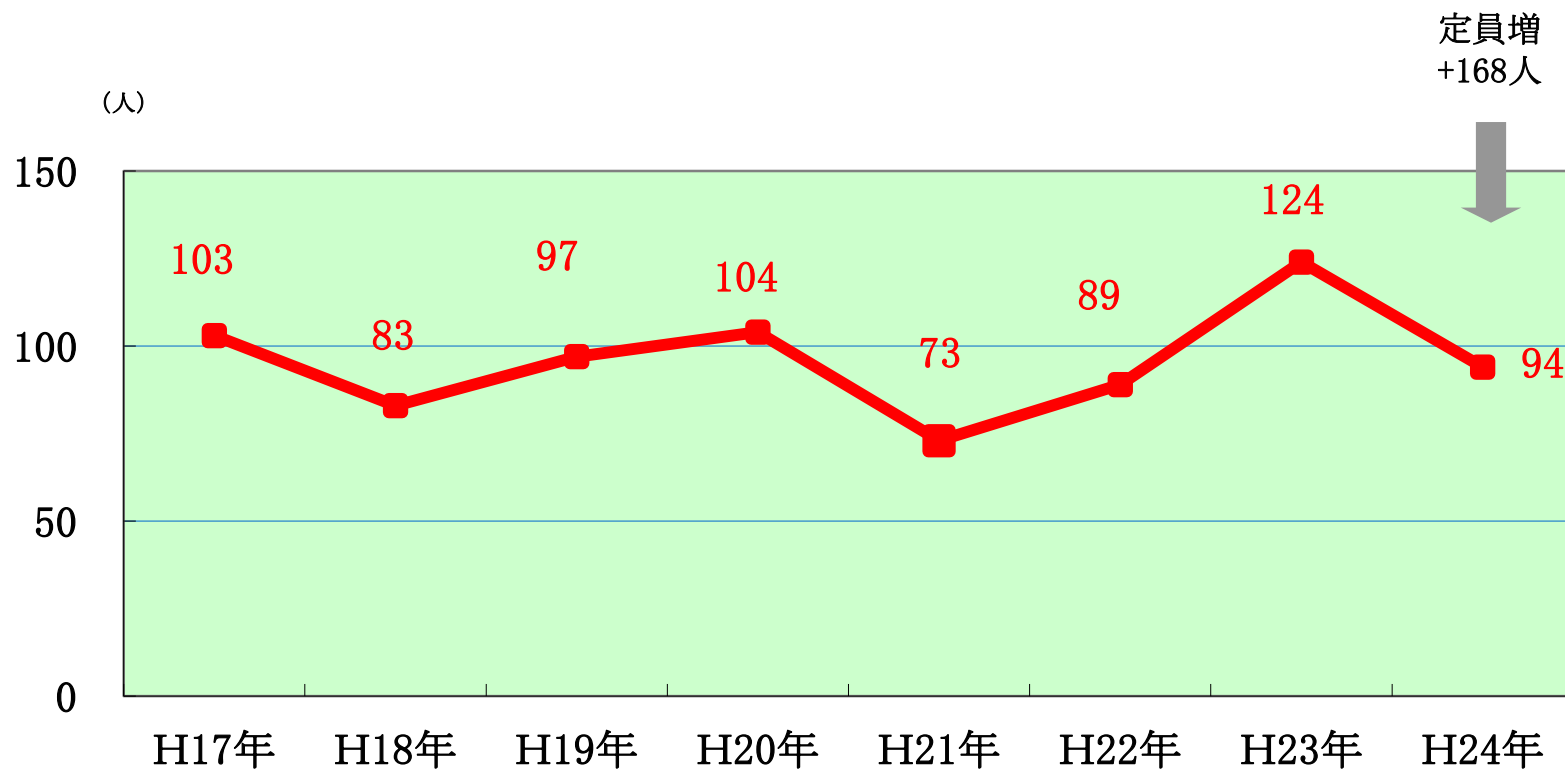
# 留年者4年生 学校種別



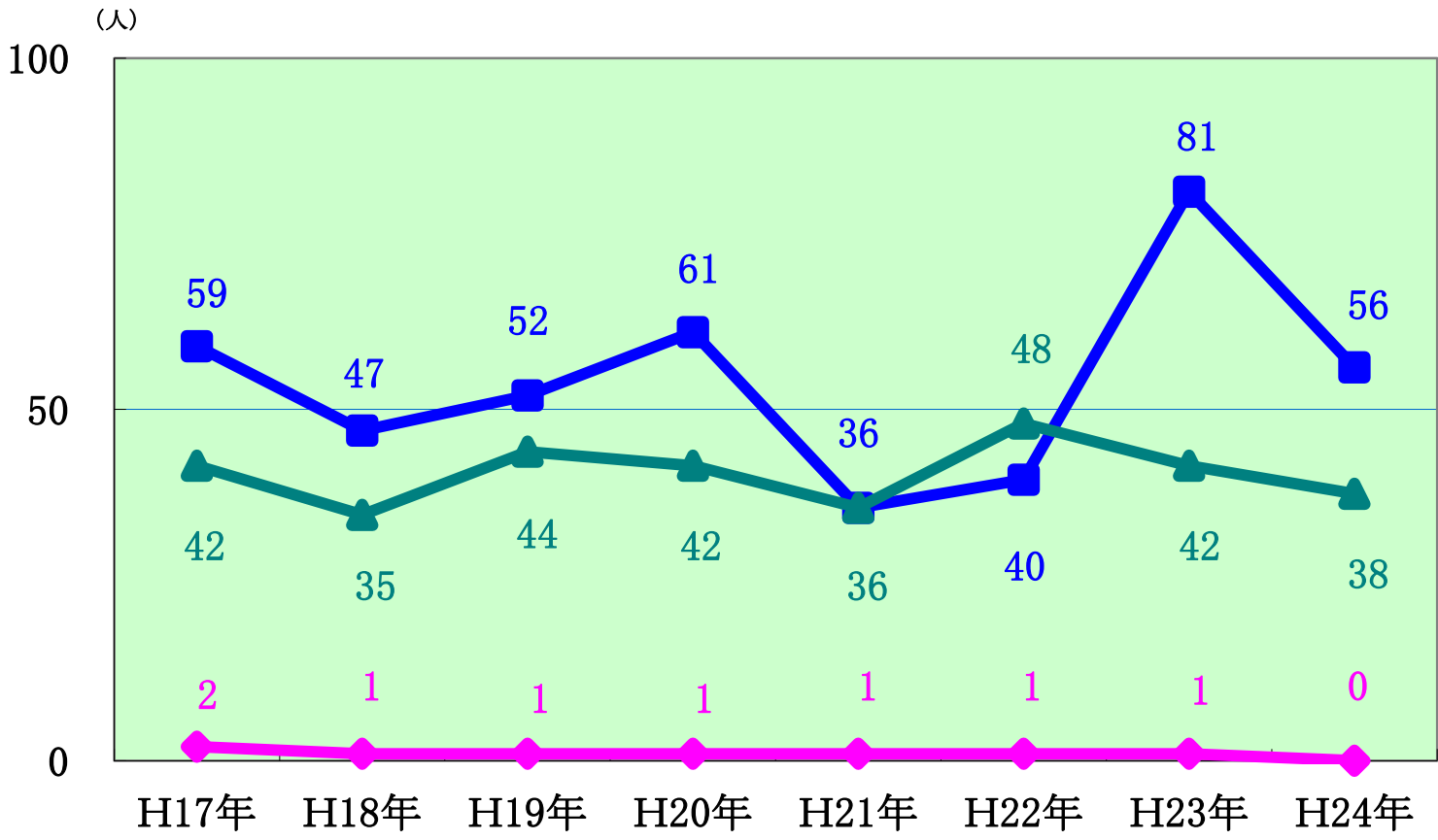
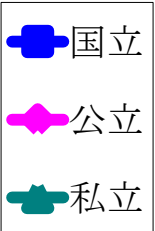
# 留年者 5 年生

53大学 (国立30校 公立2校 私立21校)

(連続データのある大学のみ)

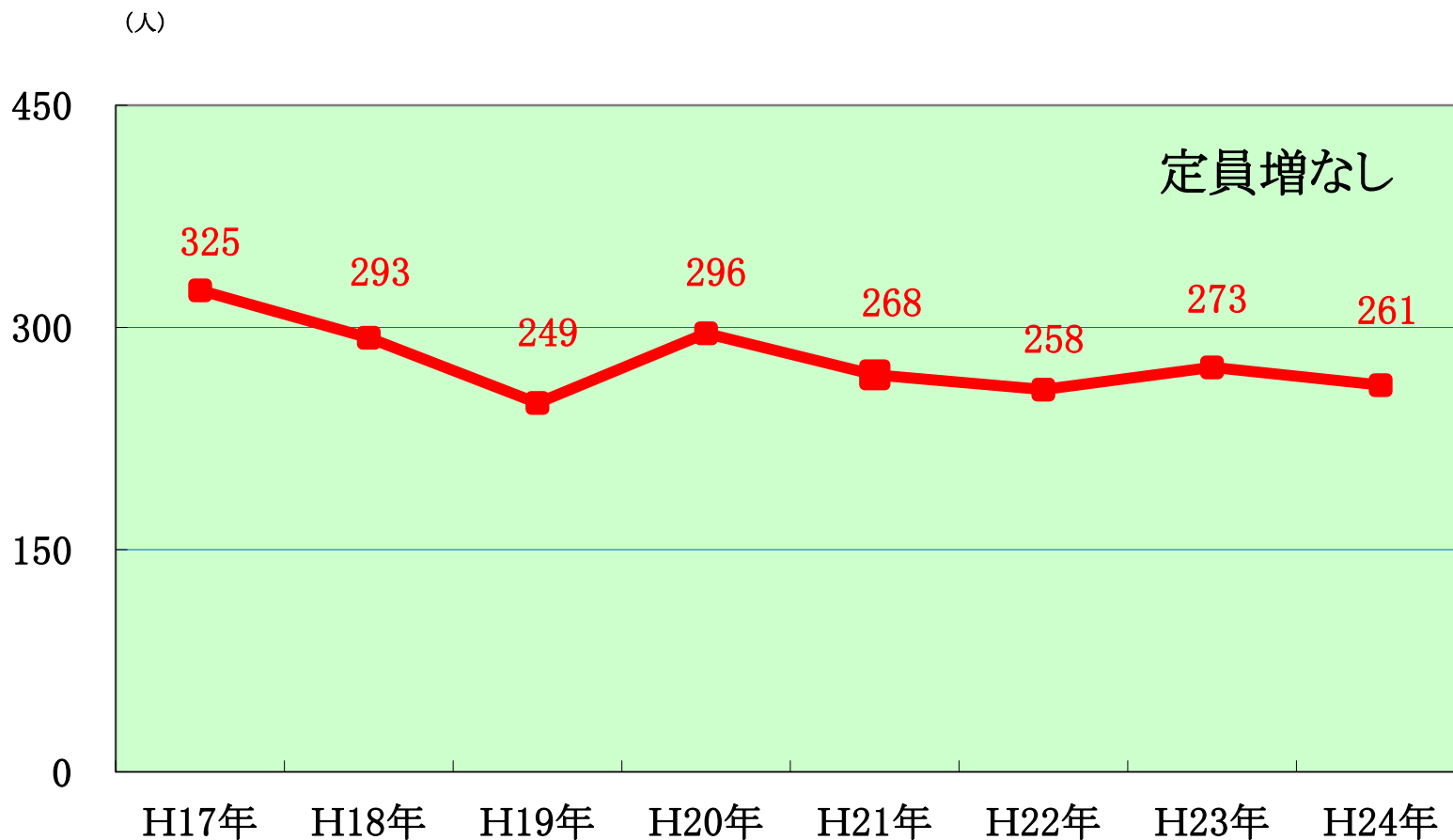


# 留年者 5 年生 学校種別

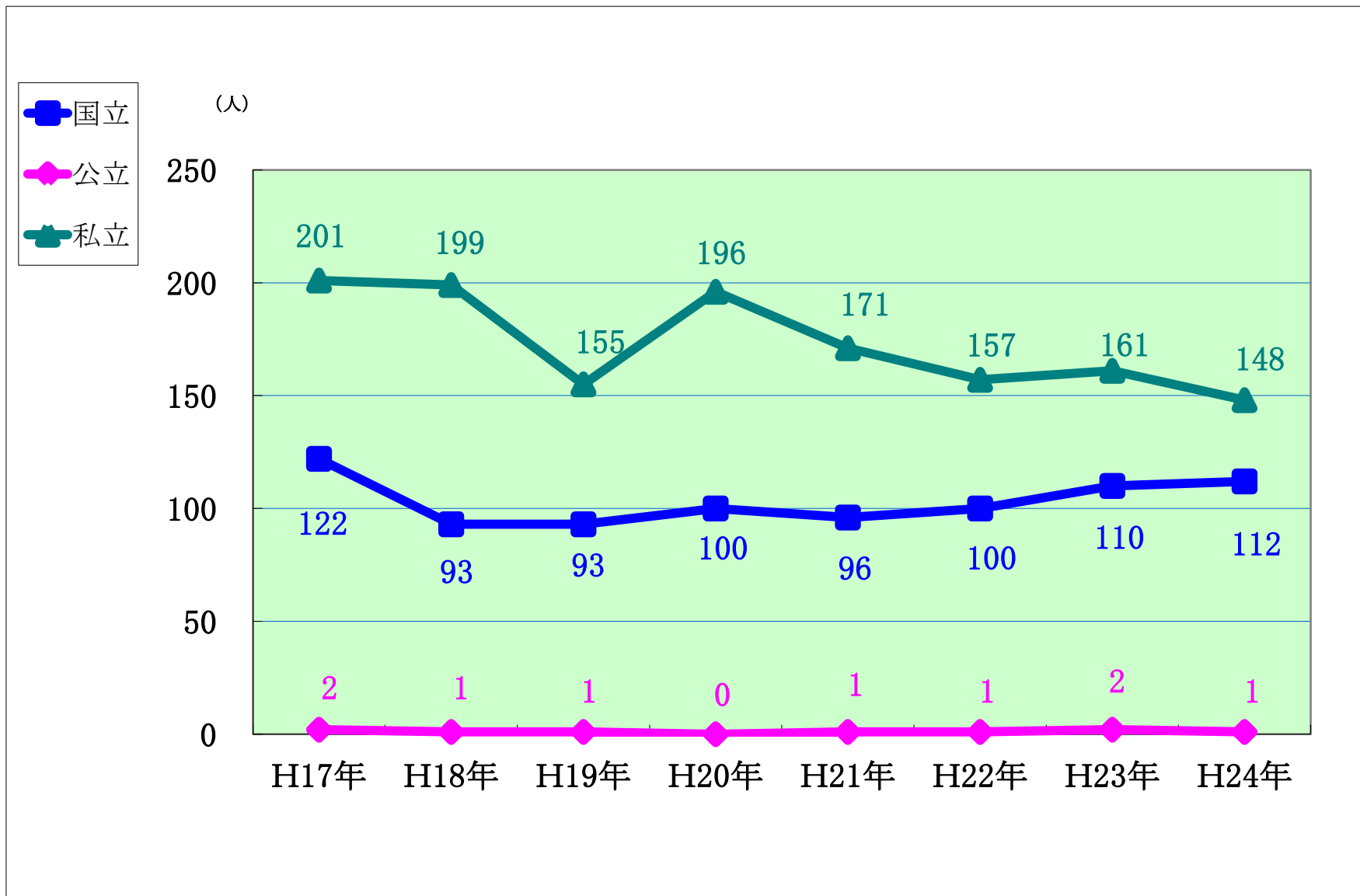


# 留年者 6 年生

53大学 (国立30校 公立2校 私立21校)  
(連続データのある大学のみ)

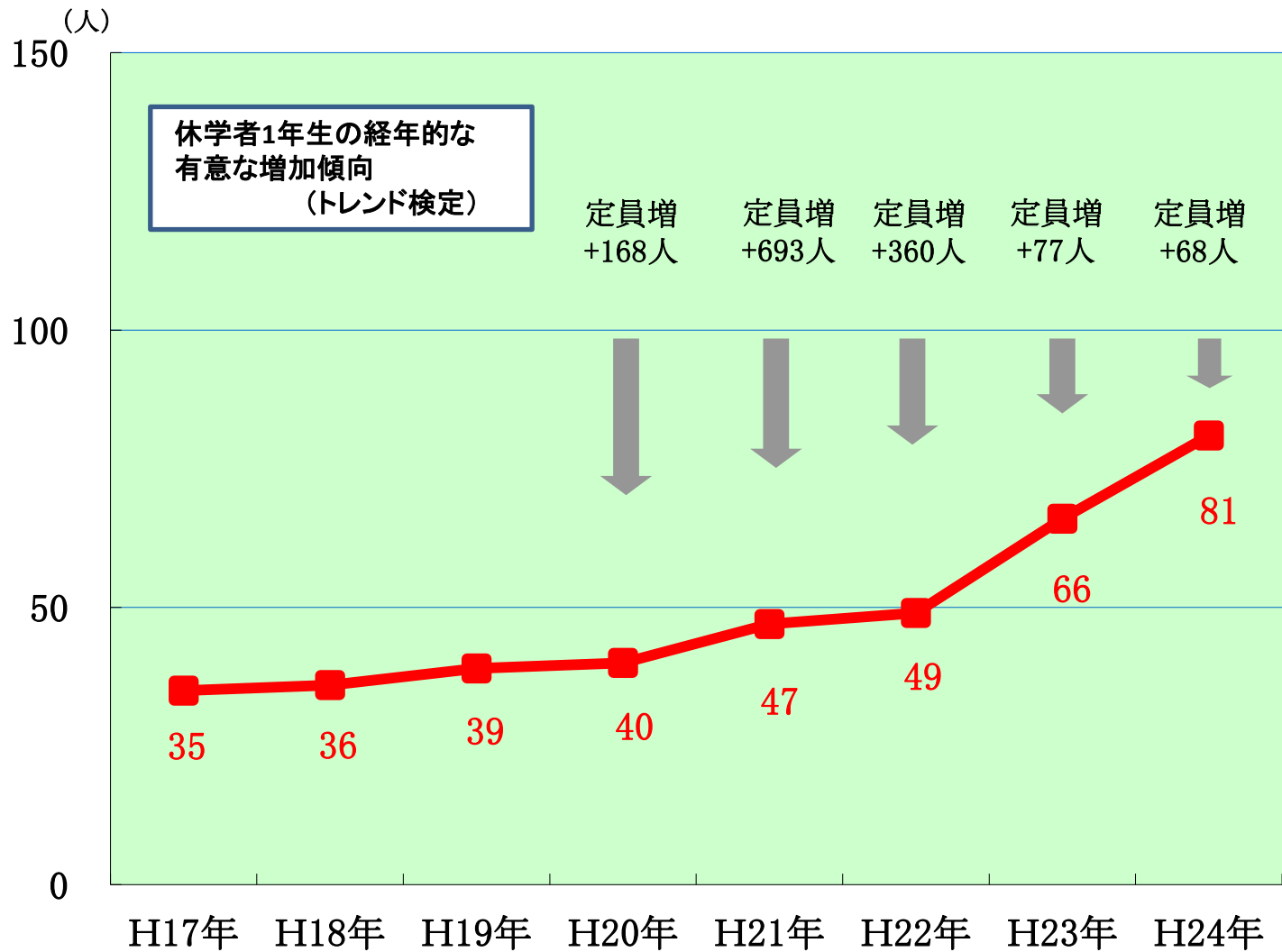


# 留年者 6 年生 学校種別

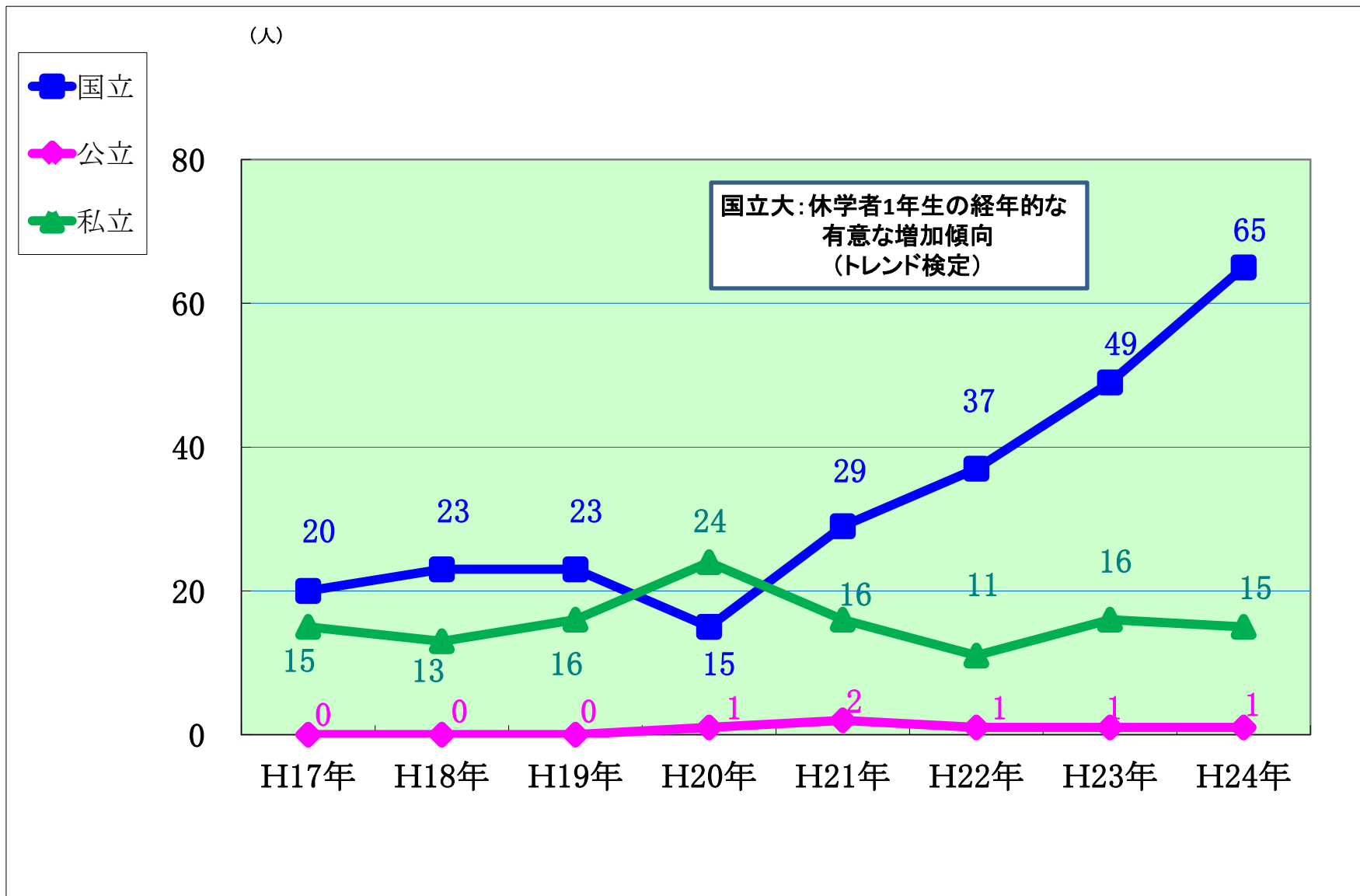




# 休学者1年生 50大学（国立28校 公立2校 私立20校） （連続データのある大学のみ）

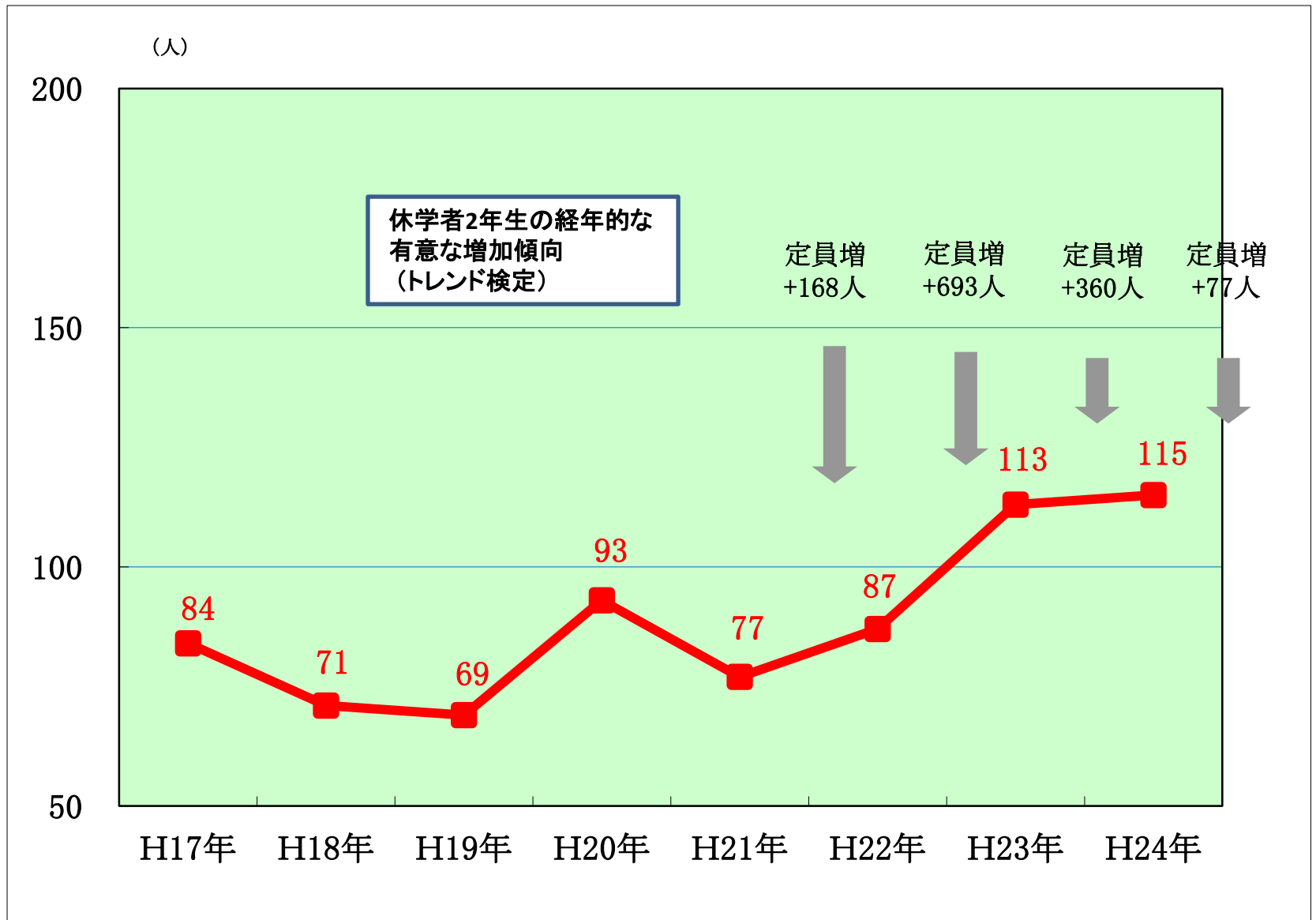


# 休学者1年生 学校種別

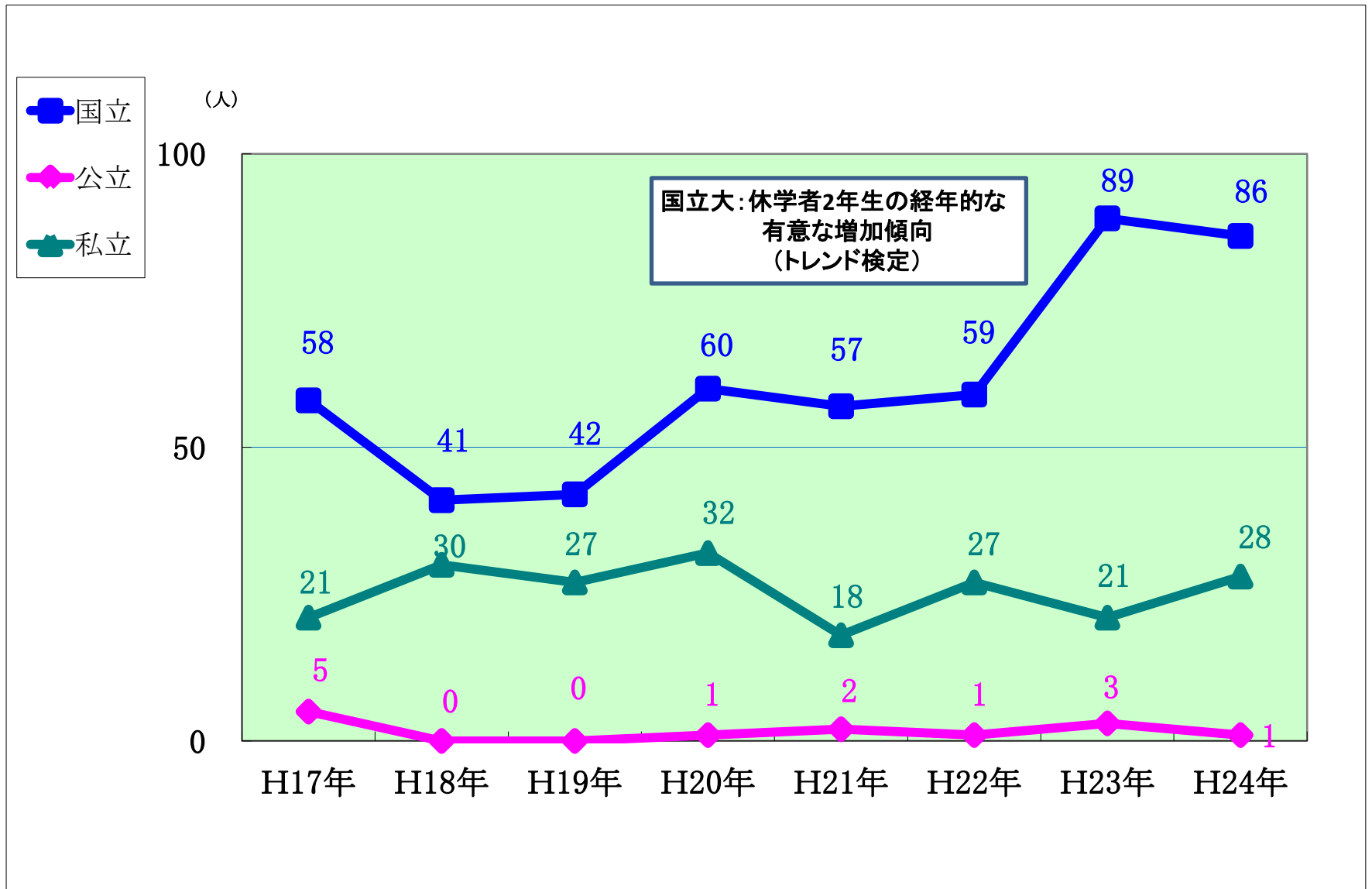


# 休学者 2 年生 50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



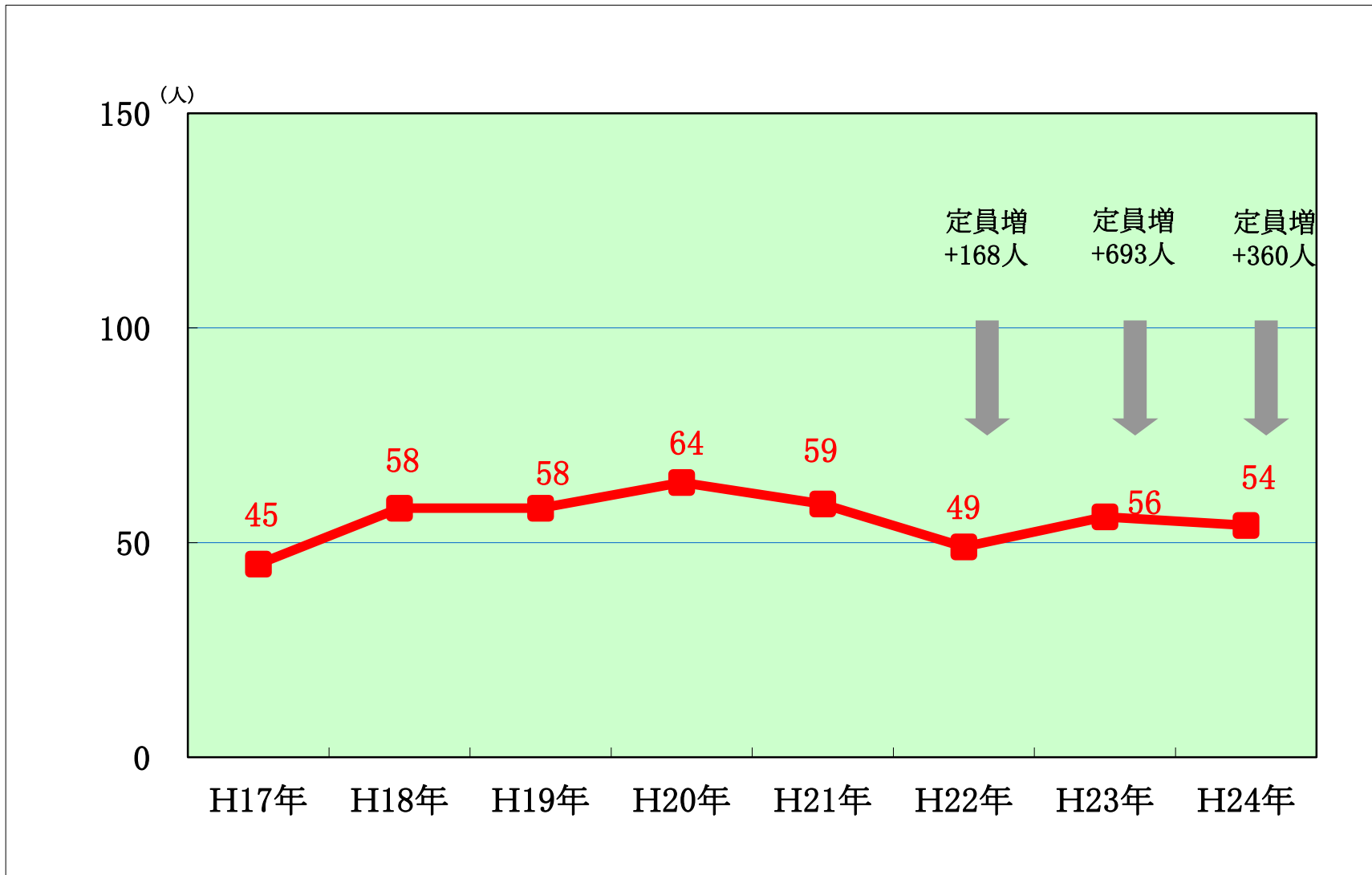
# 休学者2年生 学校種別



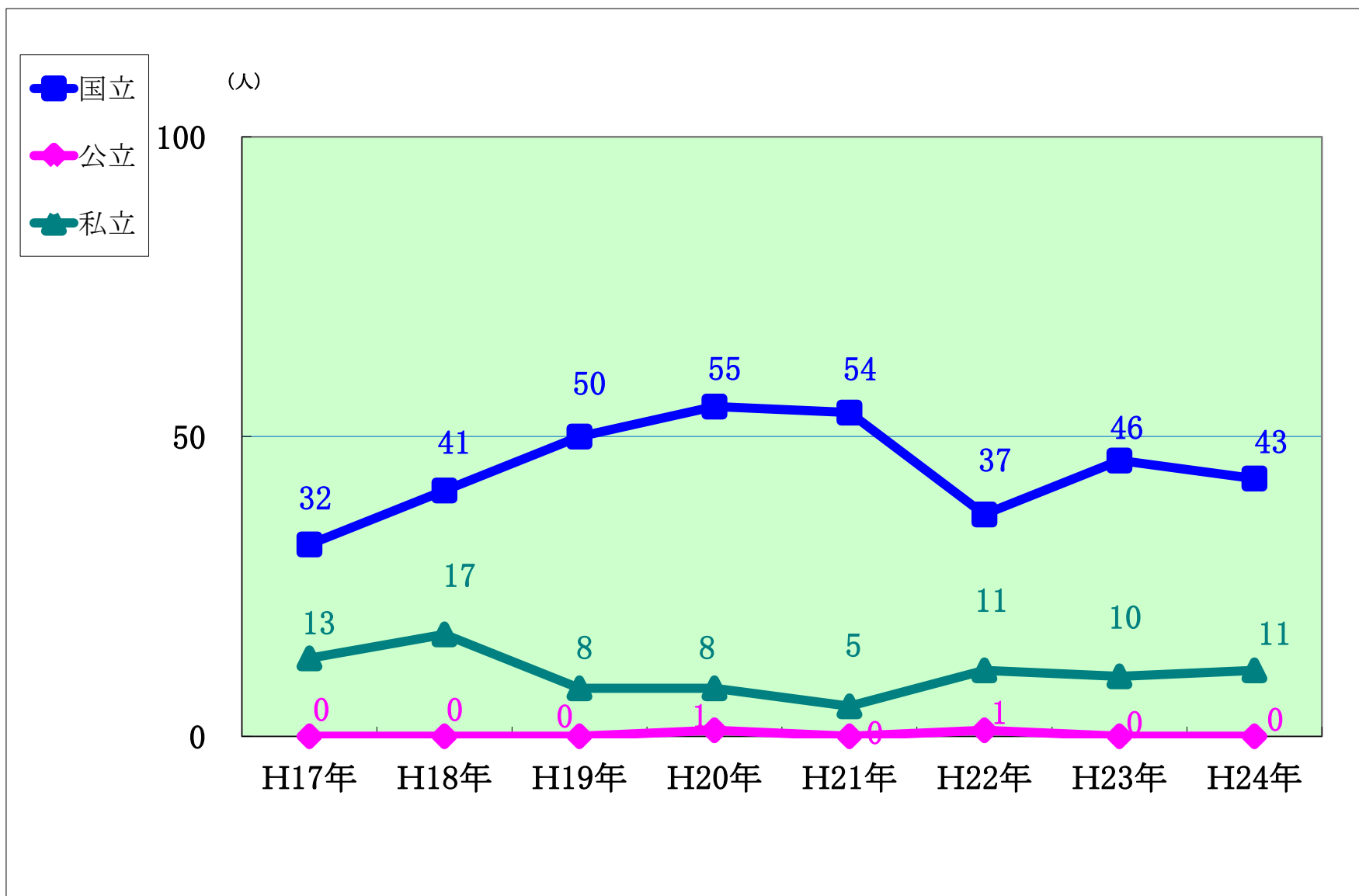
# 休学者 3 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



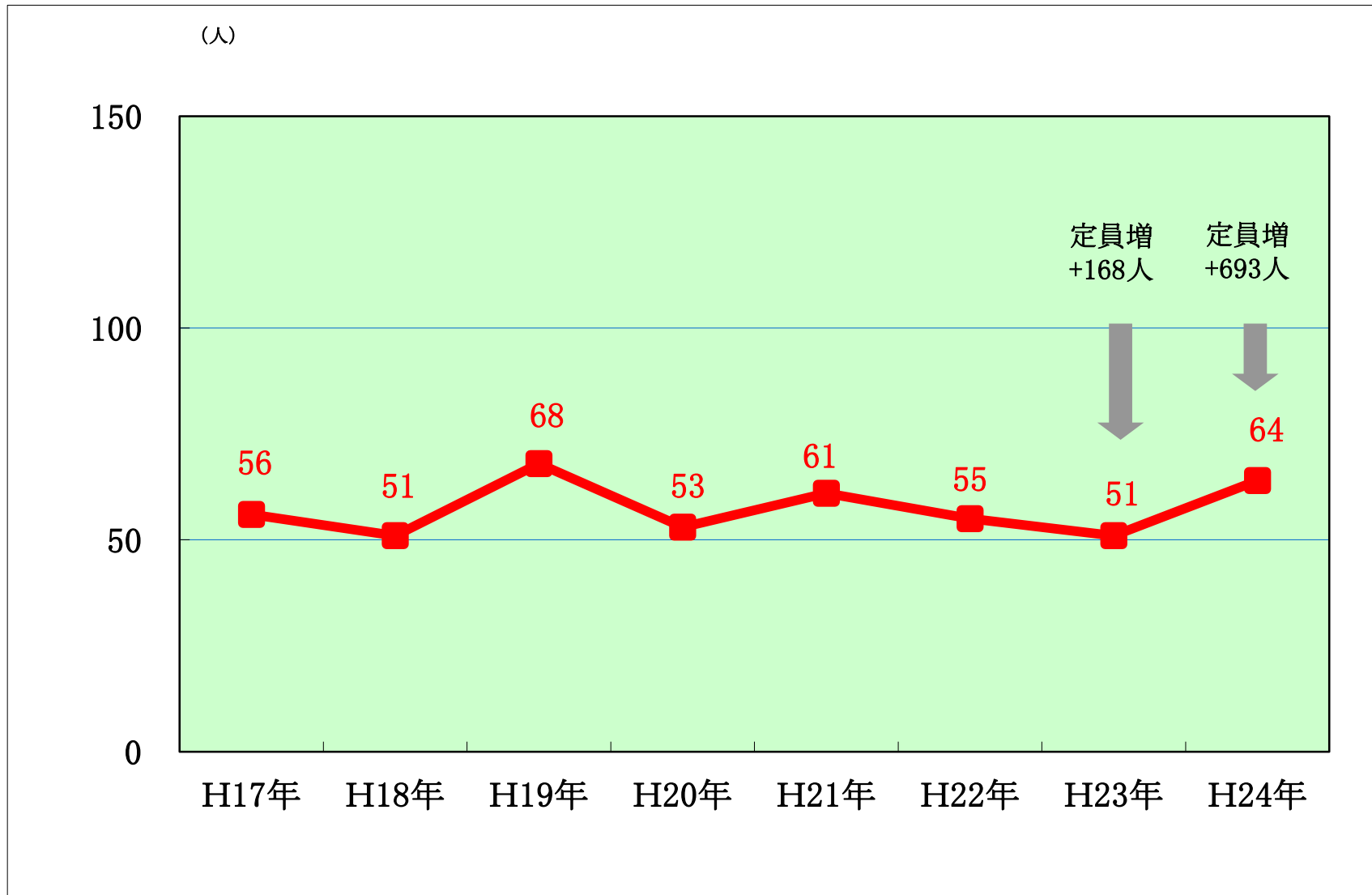
# 休学者3年生 学校種別



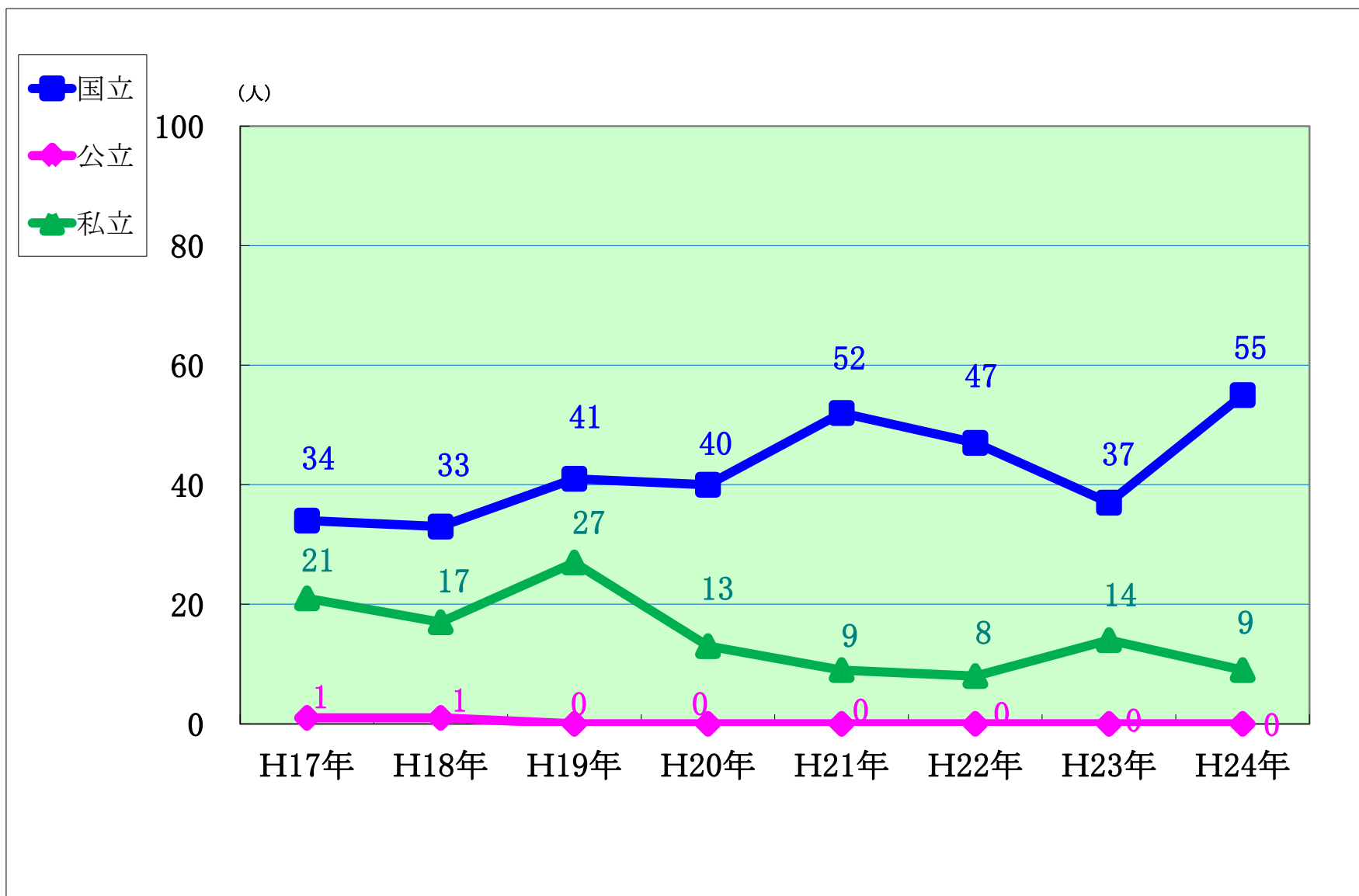
# 休学者 4 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



# 休学者 4 年生 学校種別

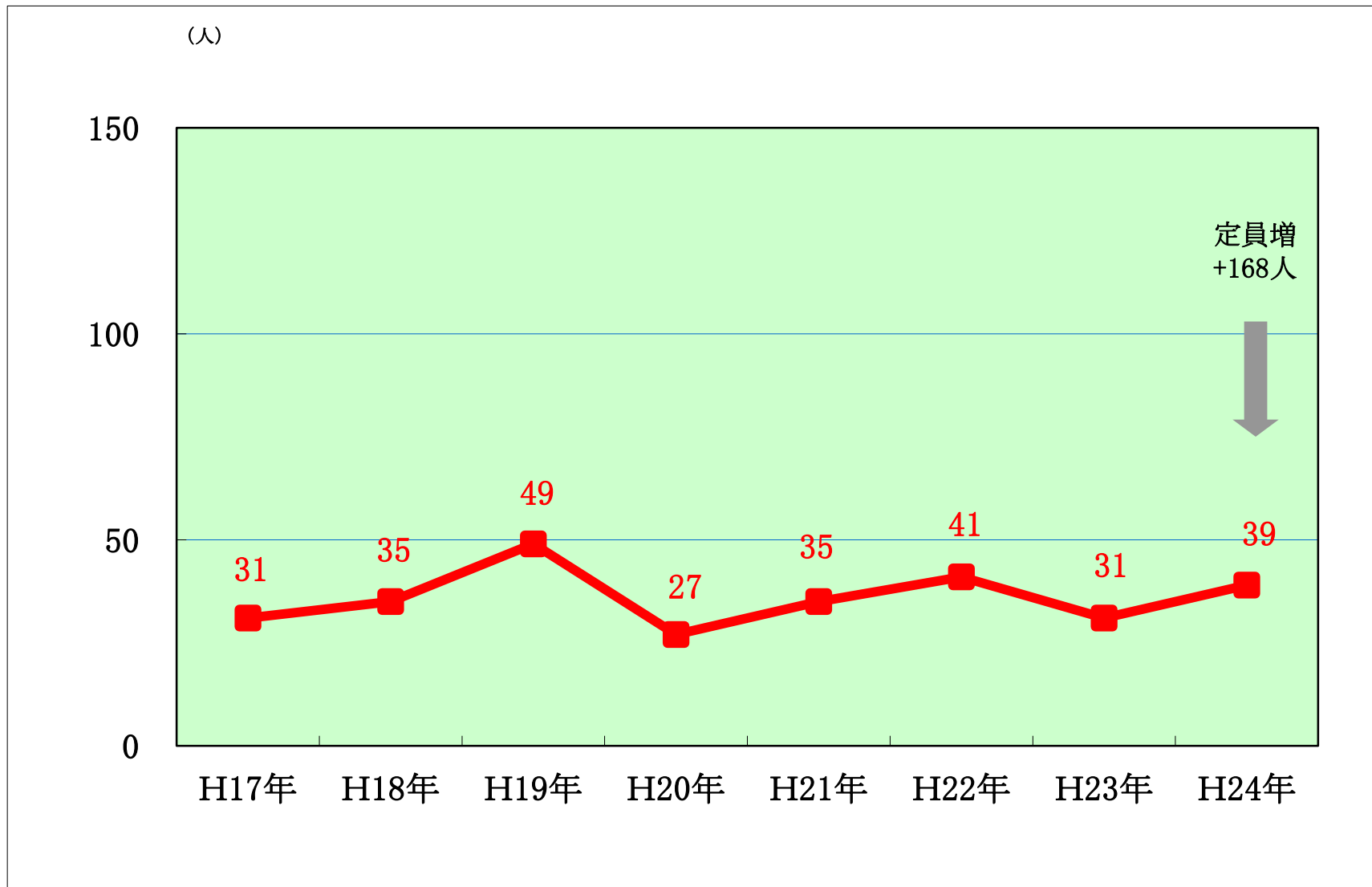




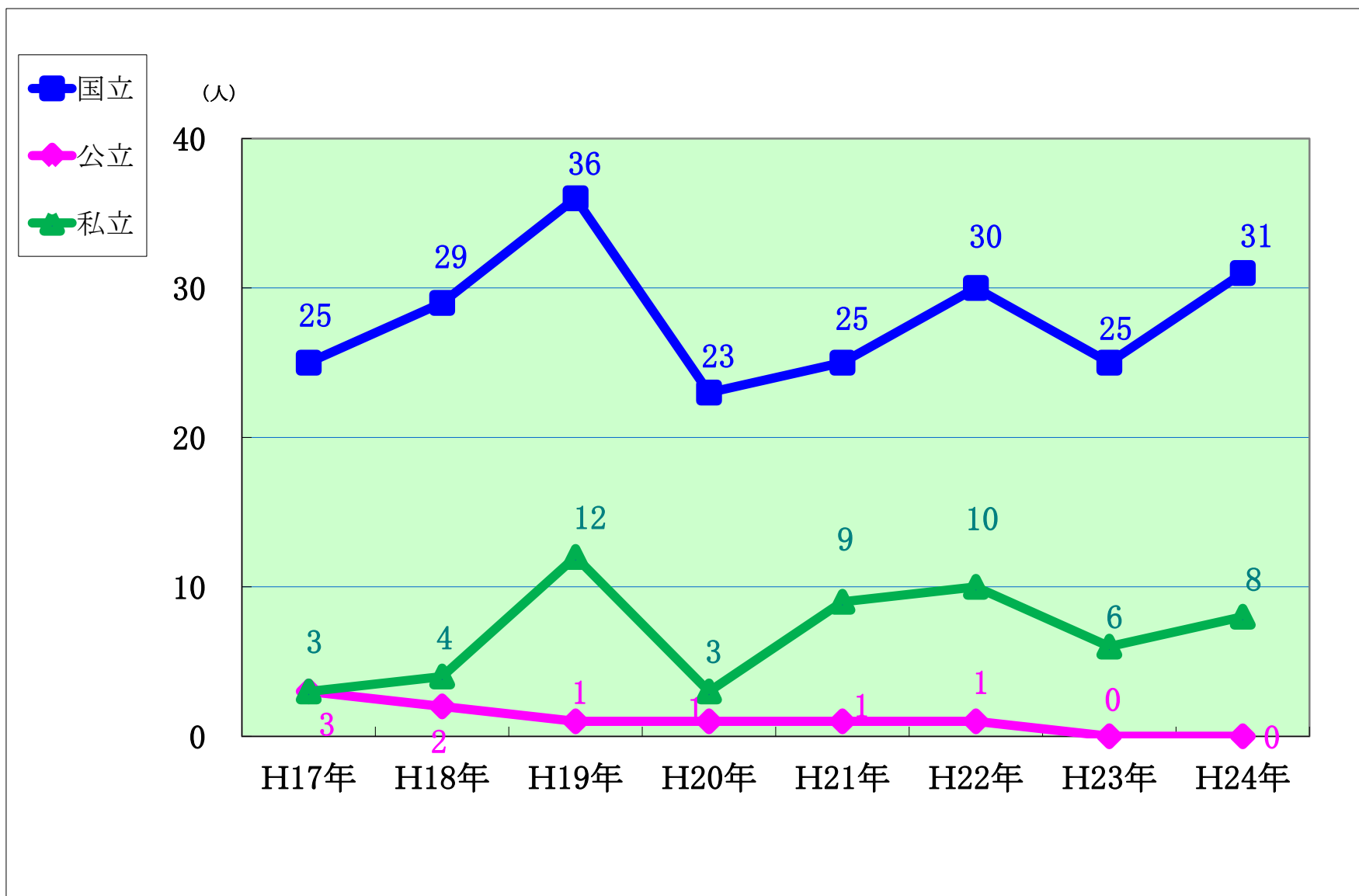
# 休学者 5 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



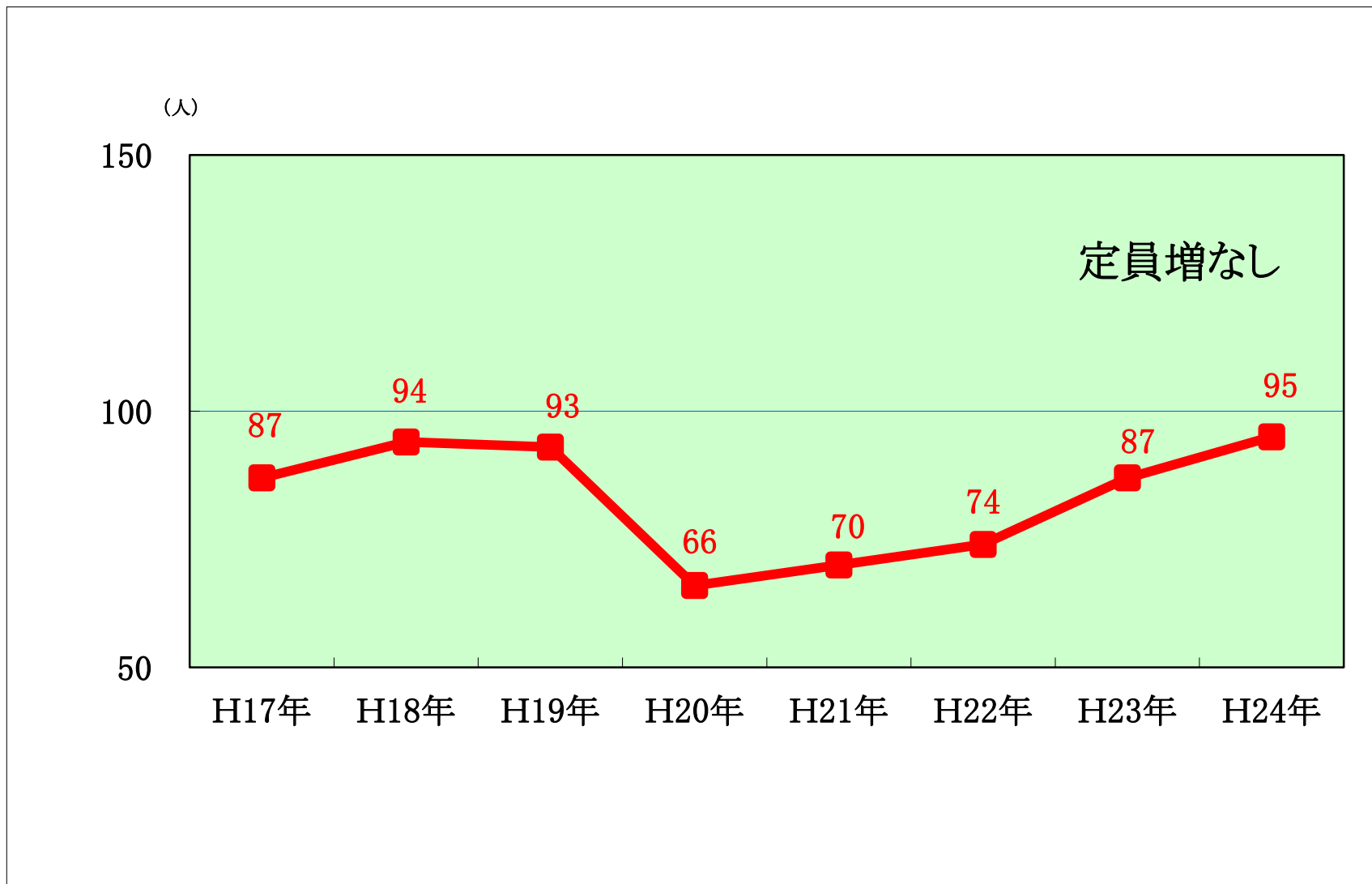
# 休学者 5 年生 学校種別



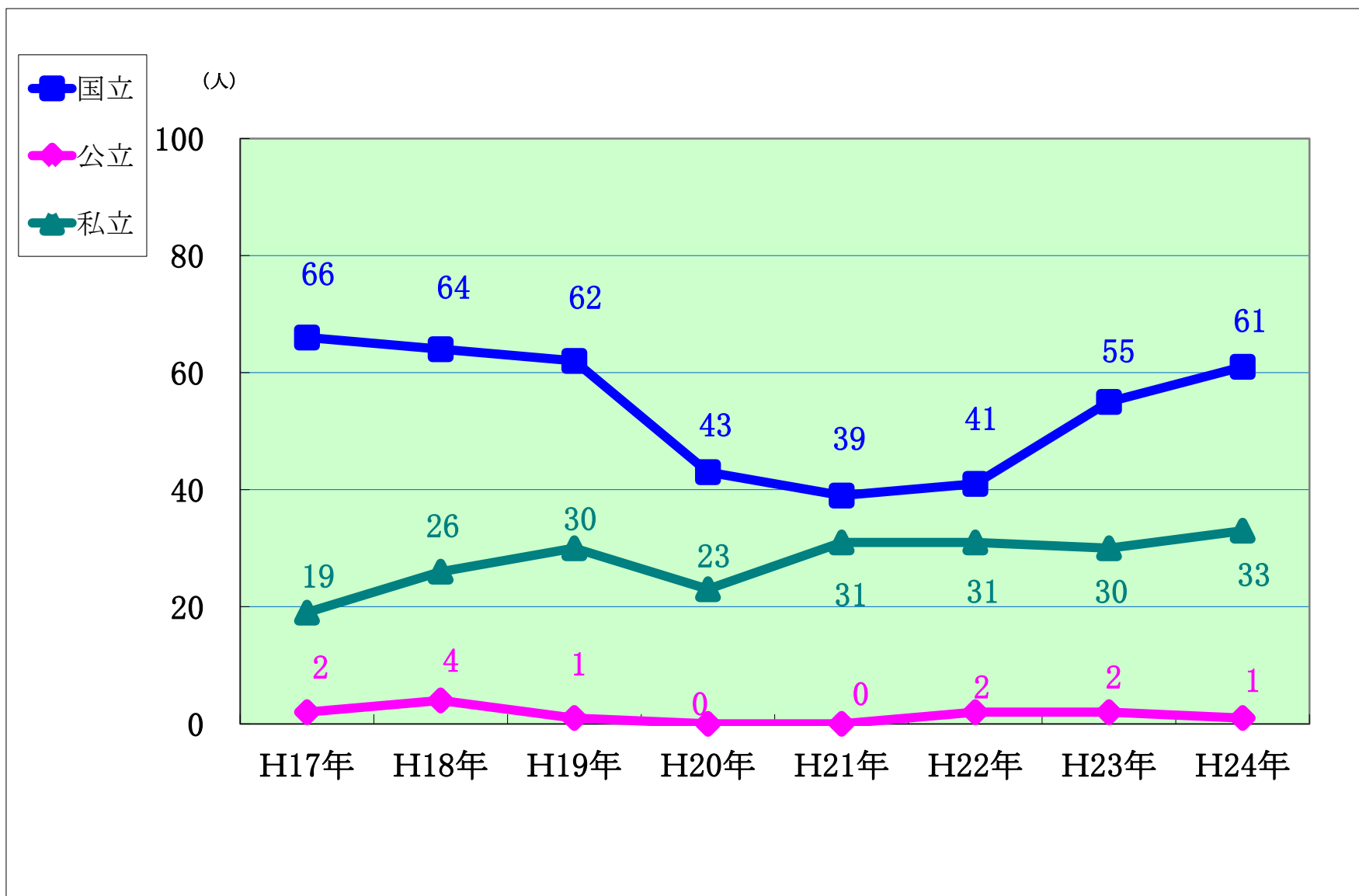
# 休学者 6 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



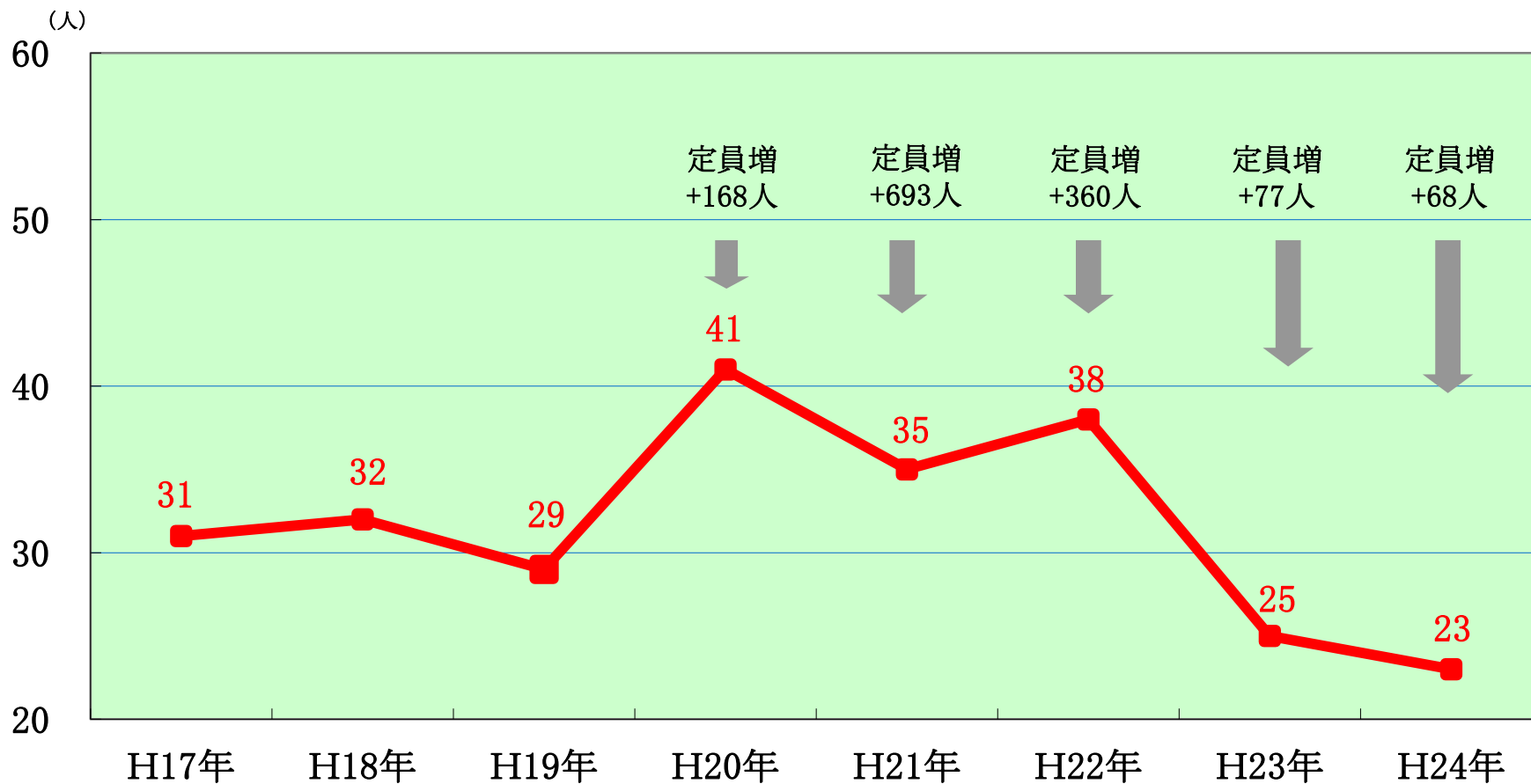
# 休学者 6 年生 学校種別



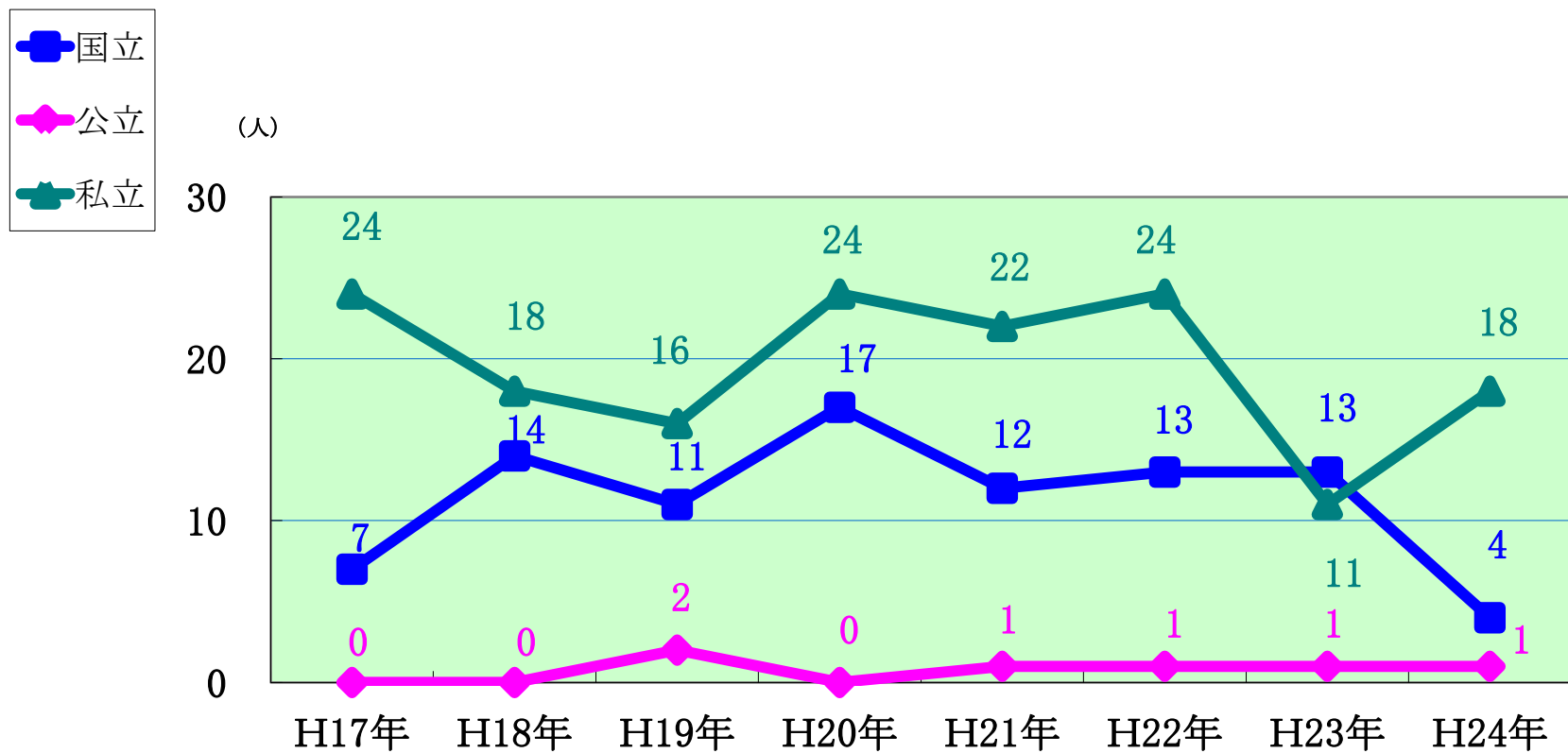
# 退学者 1 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



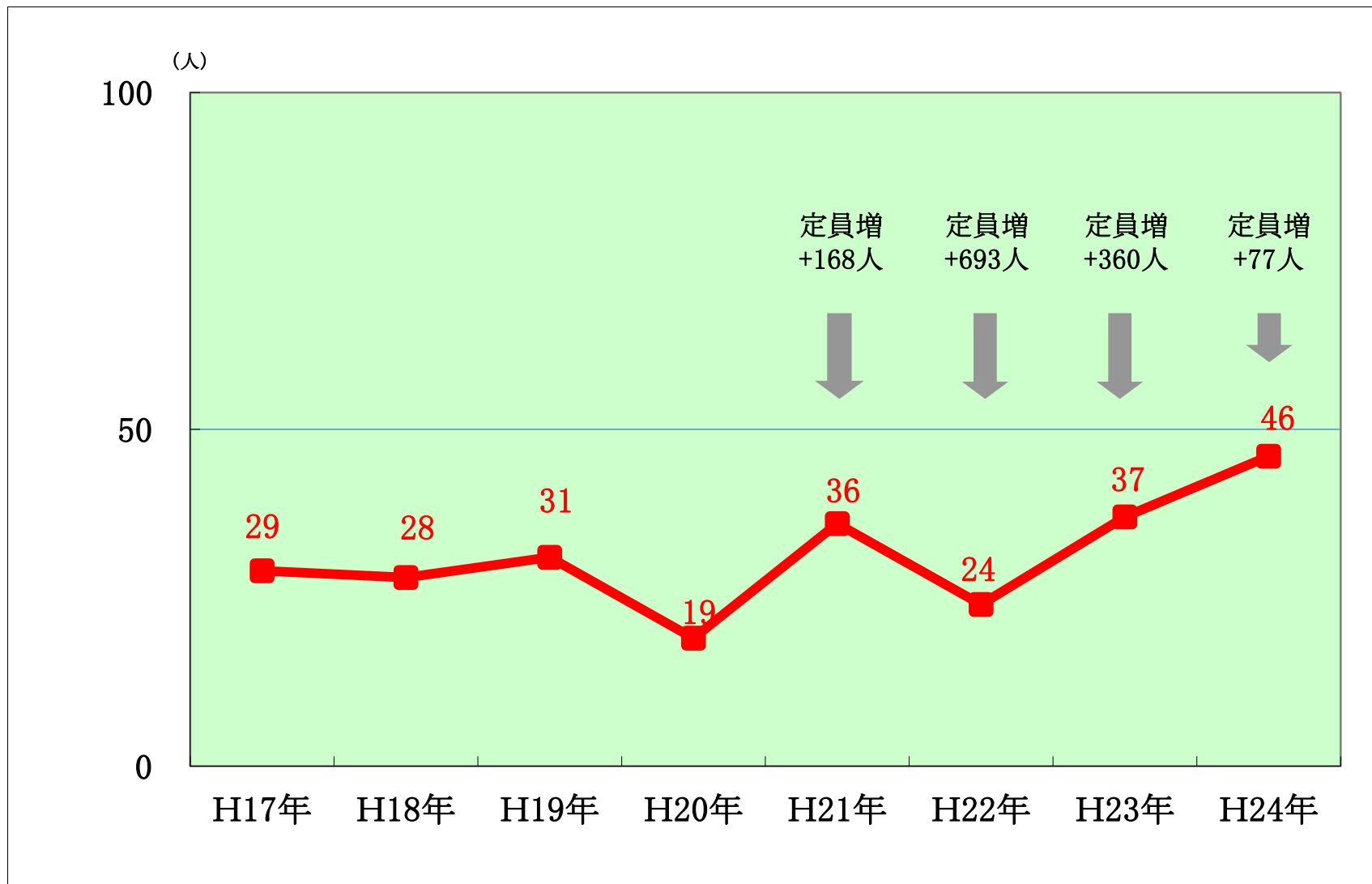
# 退学者 1 年生 学校種別



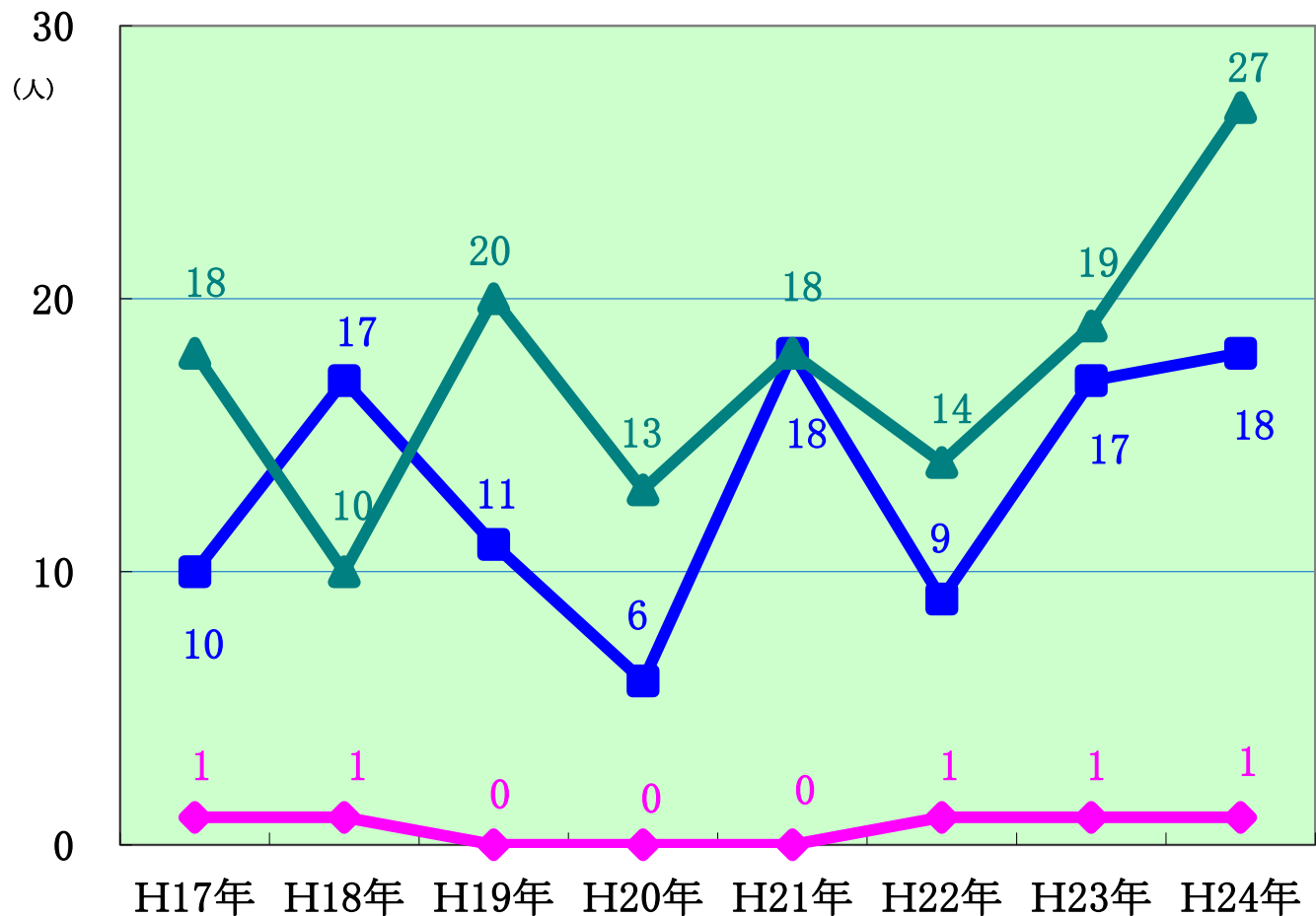
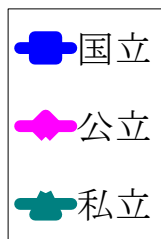
# 退学者 2 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



# 退学者 2 年生 学校種別

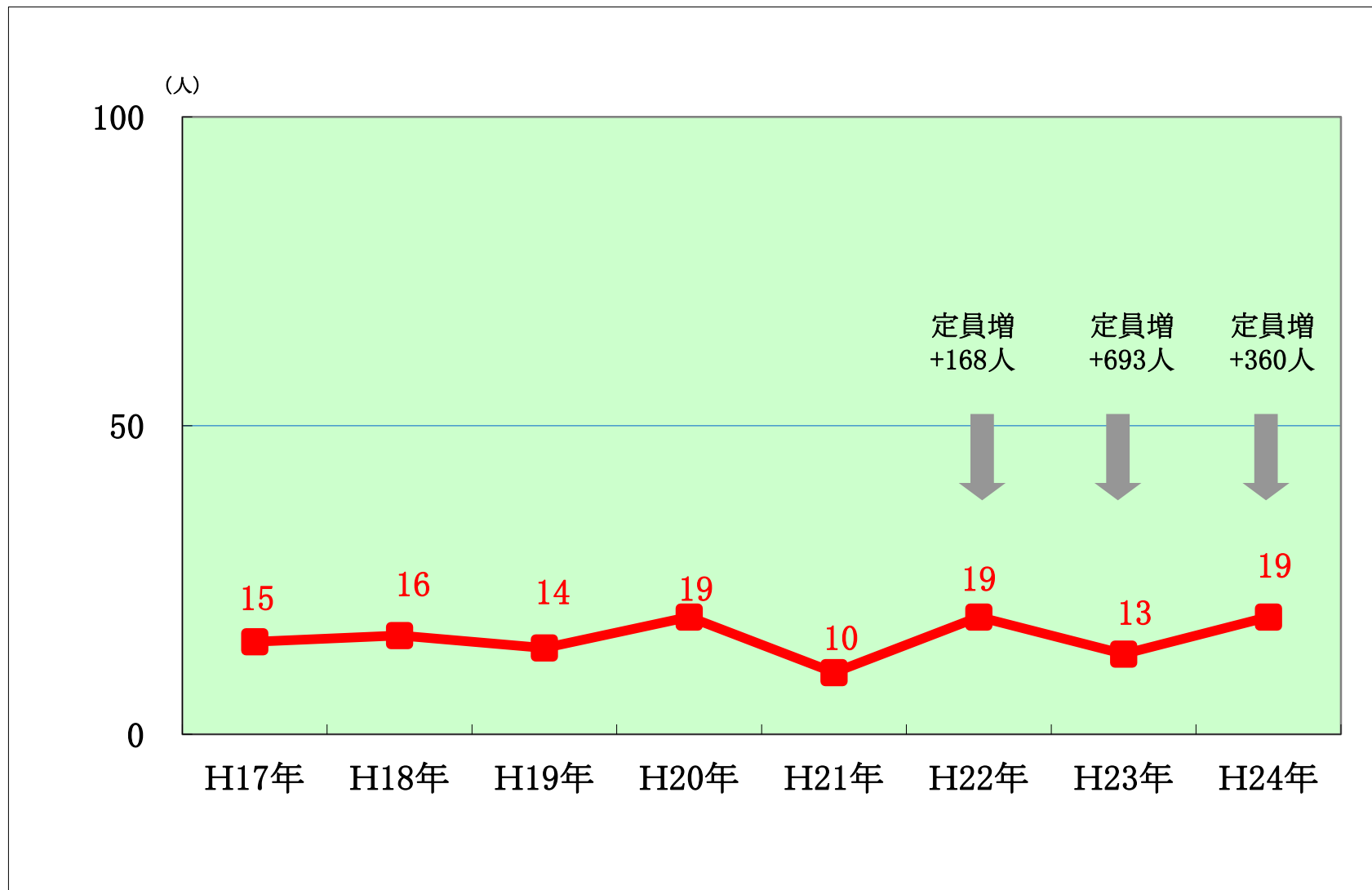




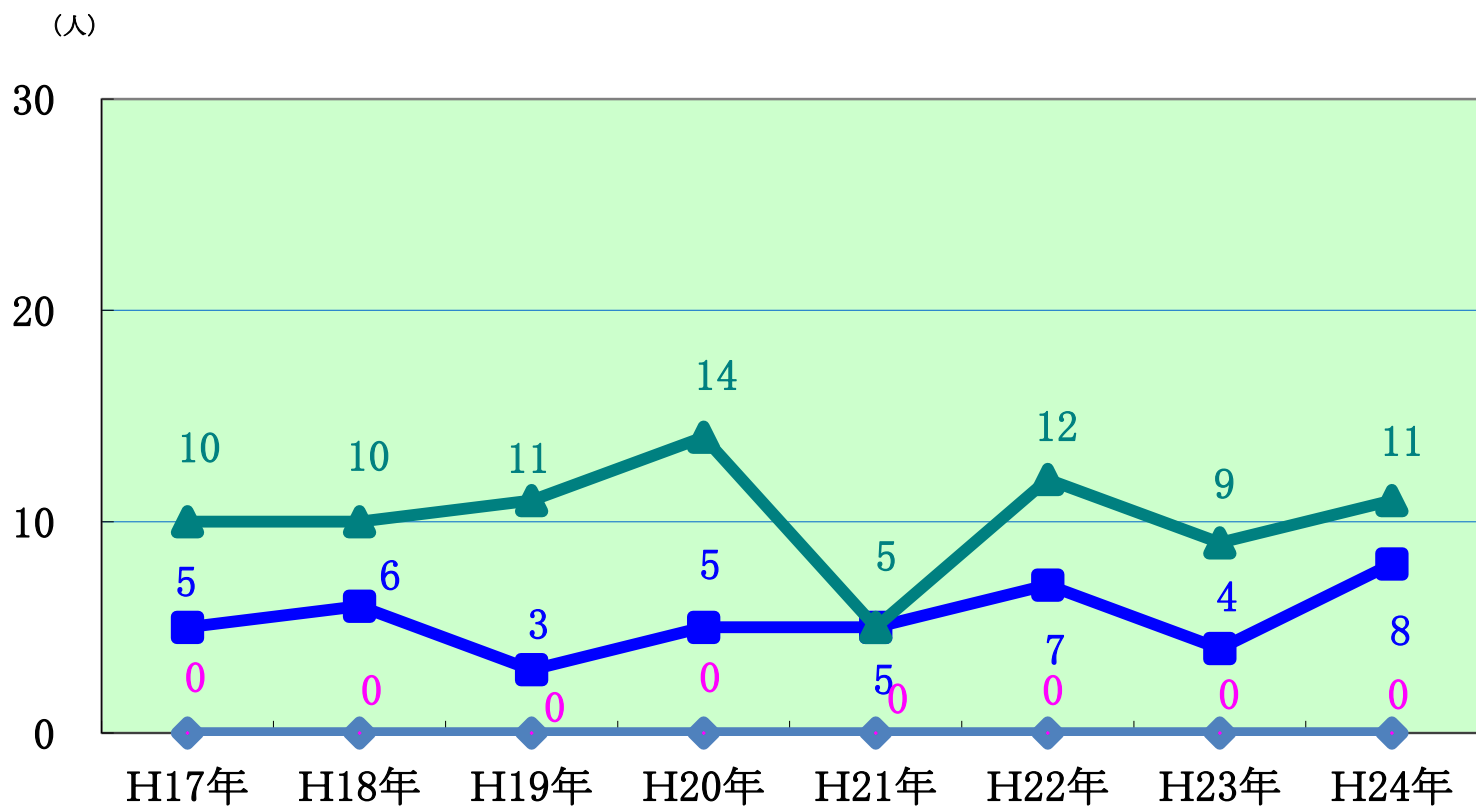
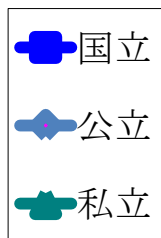
# 退学者 3 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



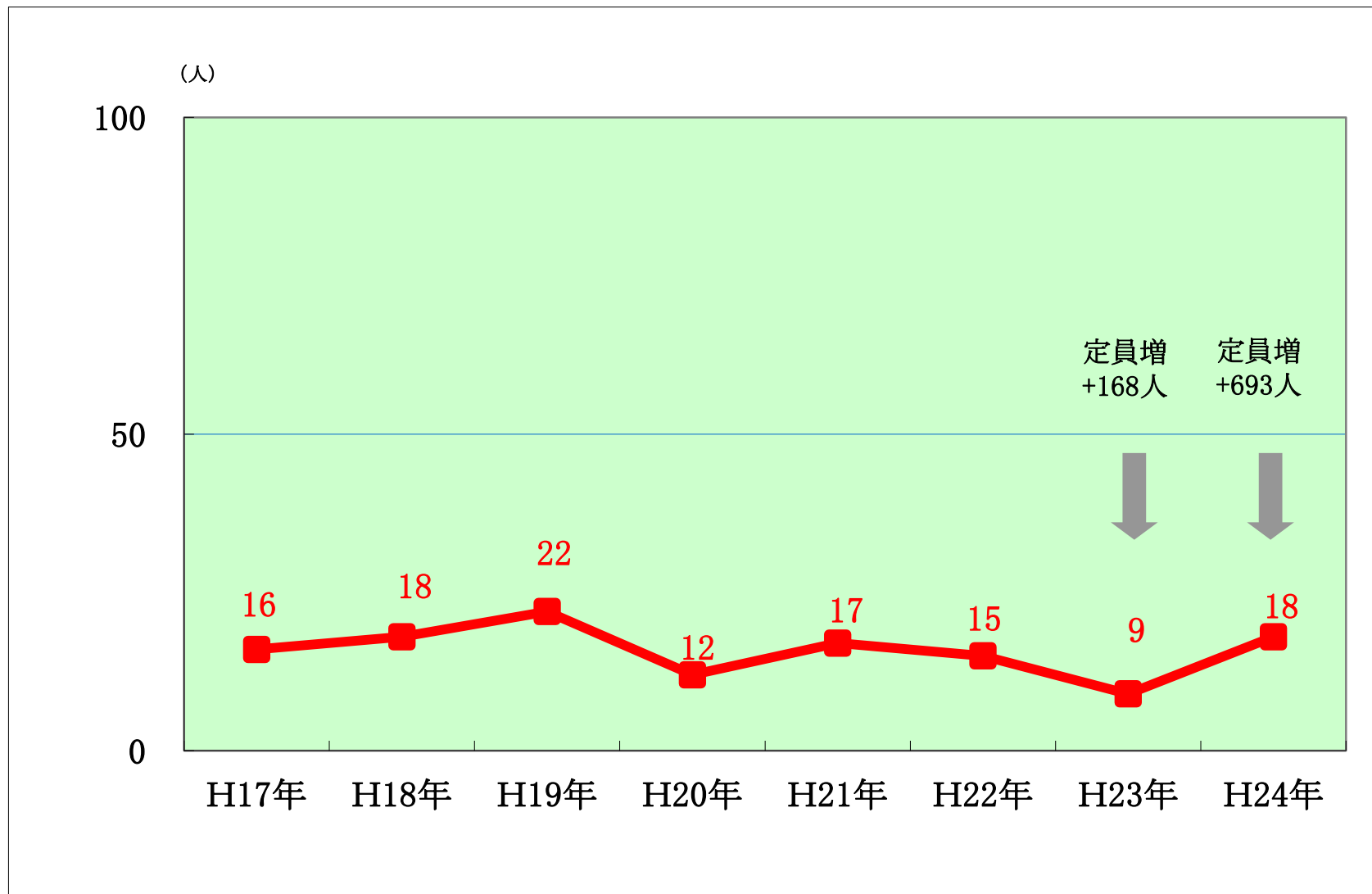
# 退学者3年生 学校種別



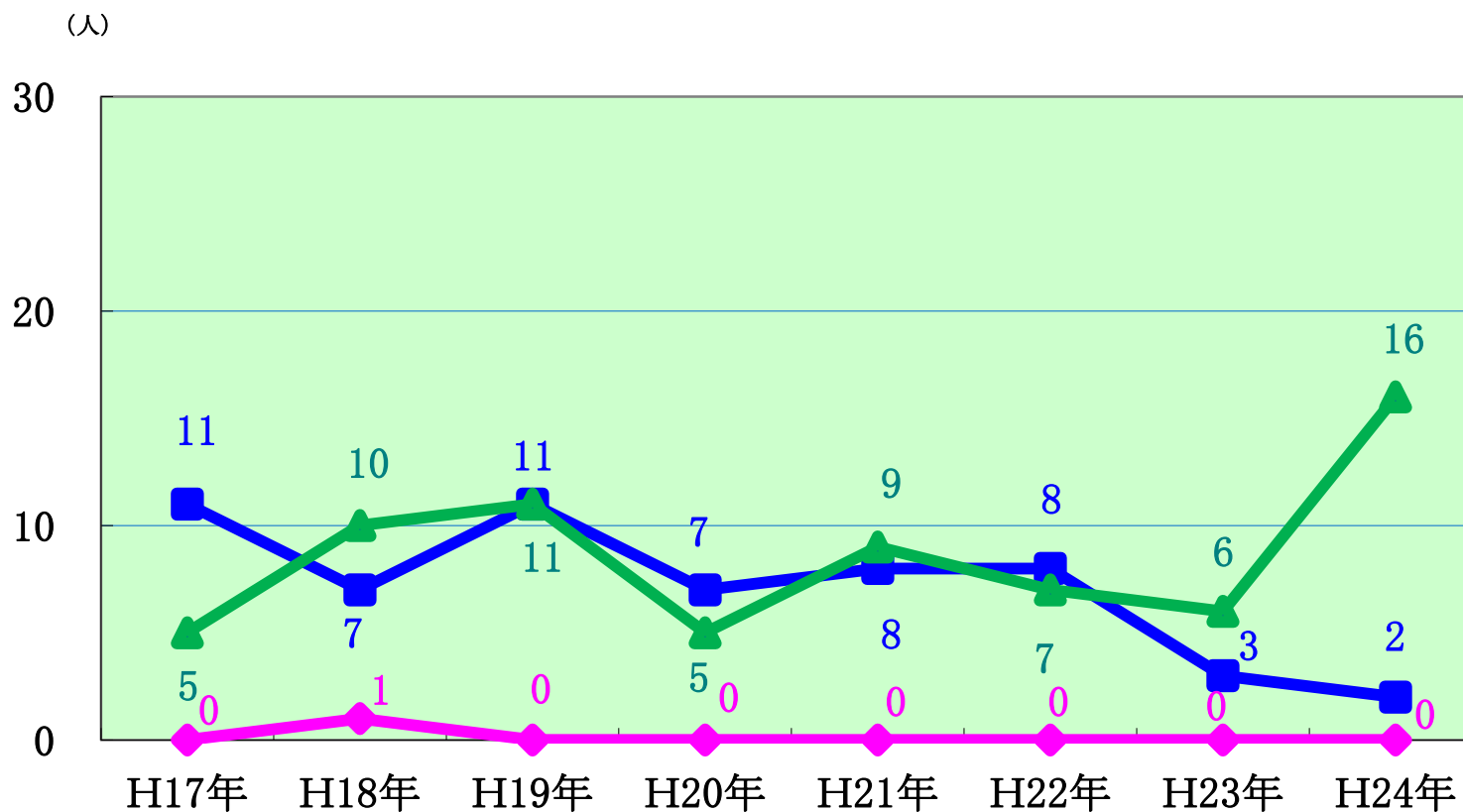
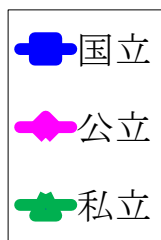
# 退学者 4 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



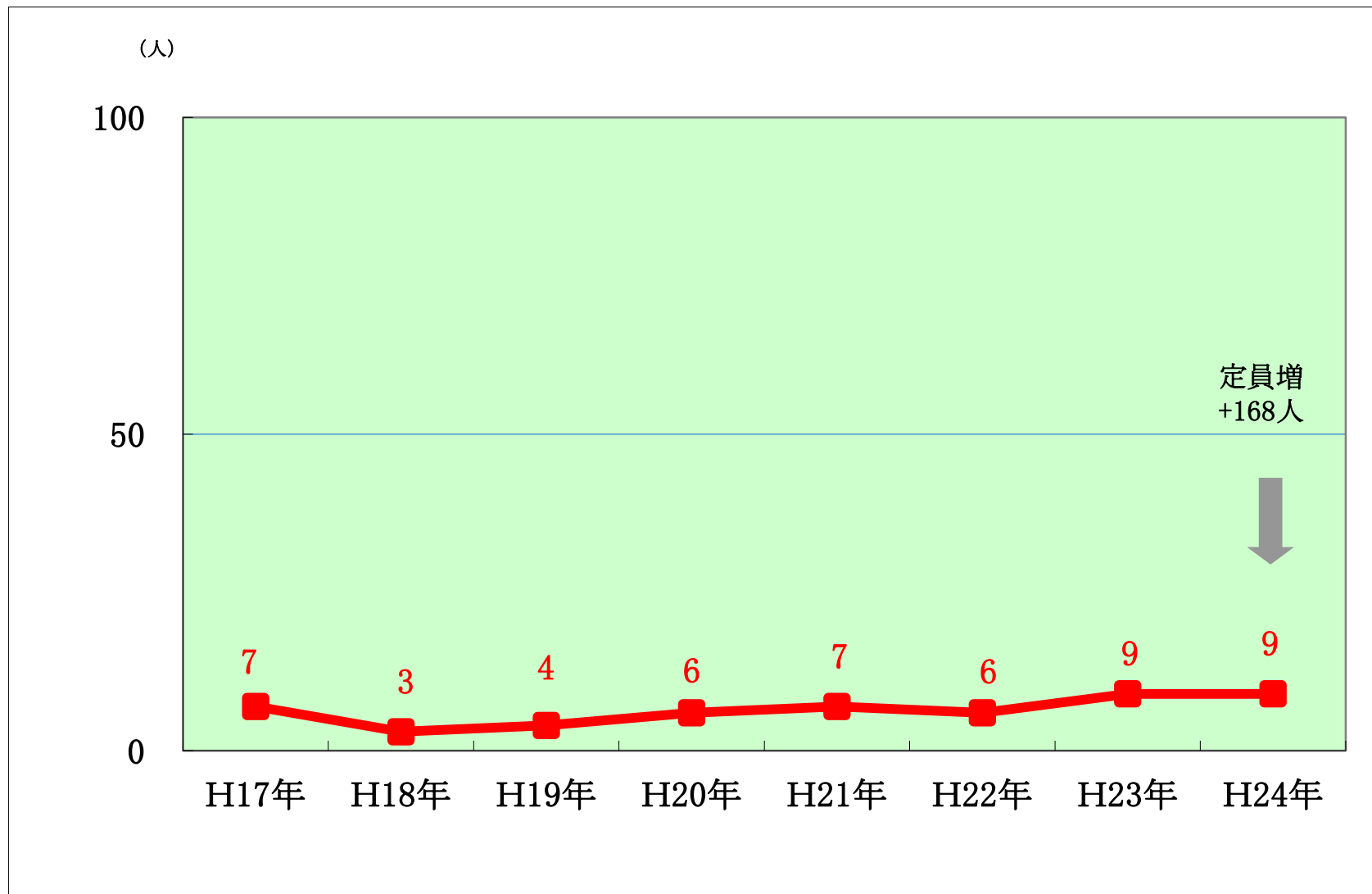
# 退学者 4 年生 学校種別



# 退学者 5 年生

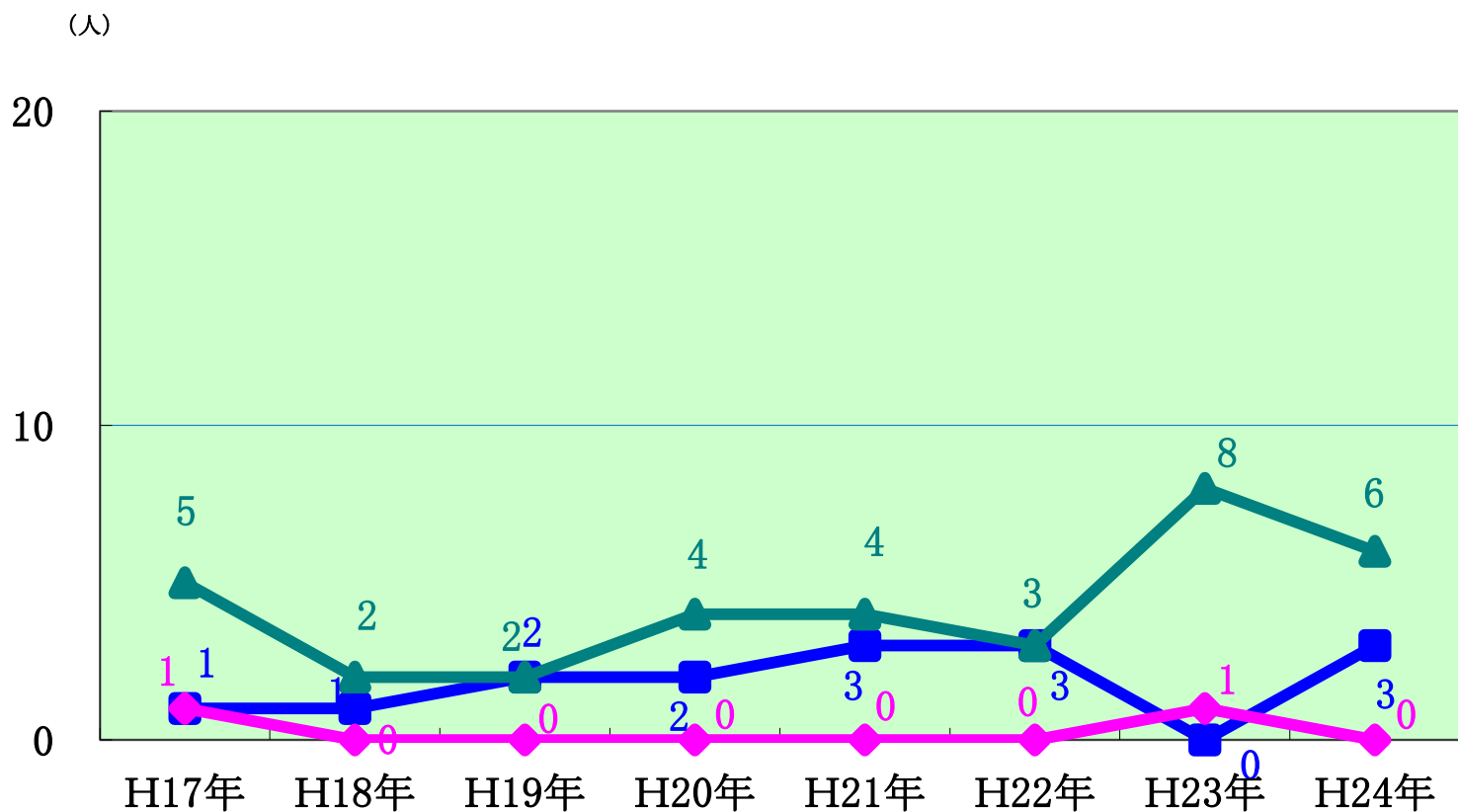
50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



# 退学者 5 年生 学校種別

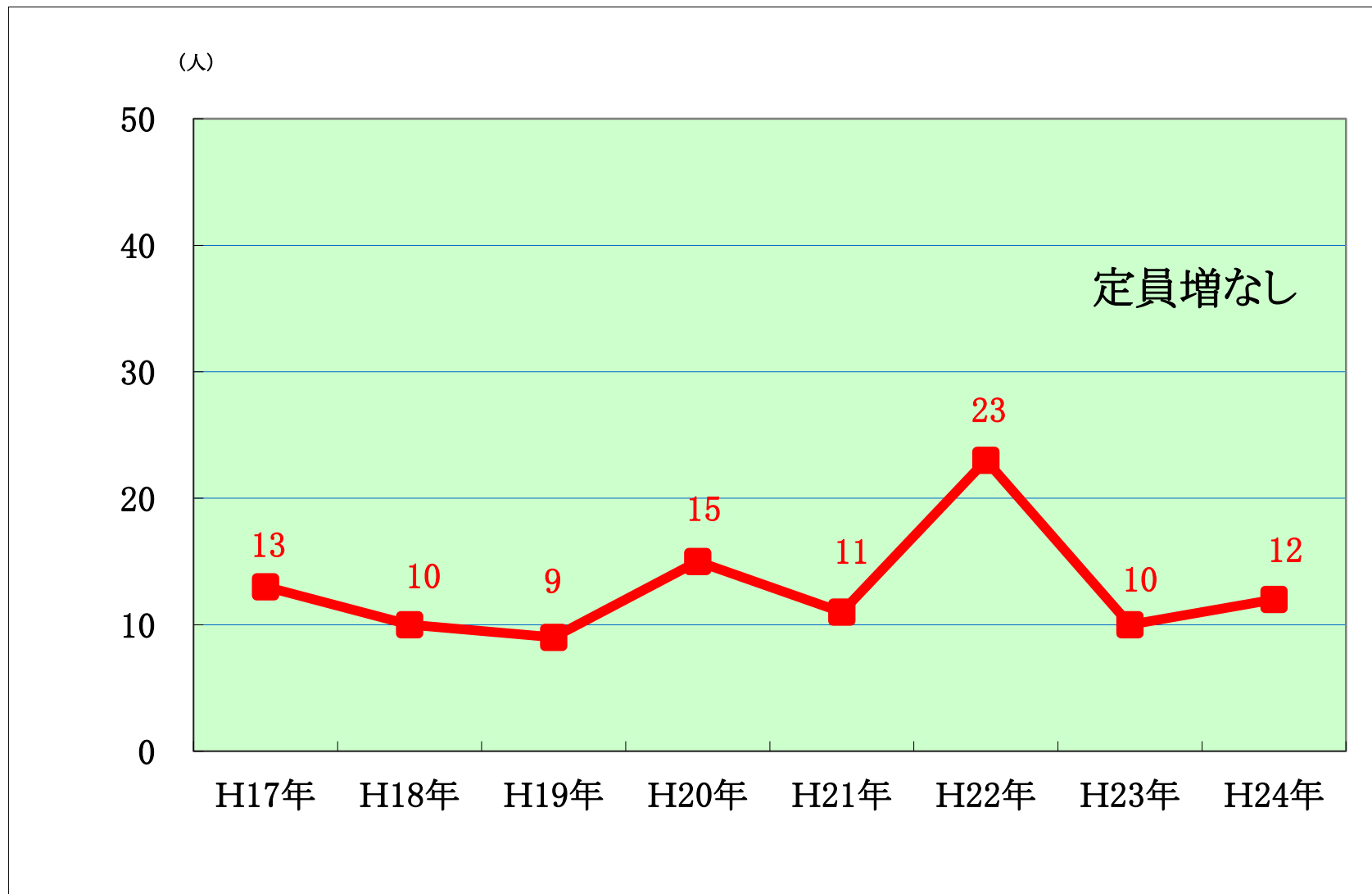
- 国立
- ◆ 公立
- ▲ 私立



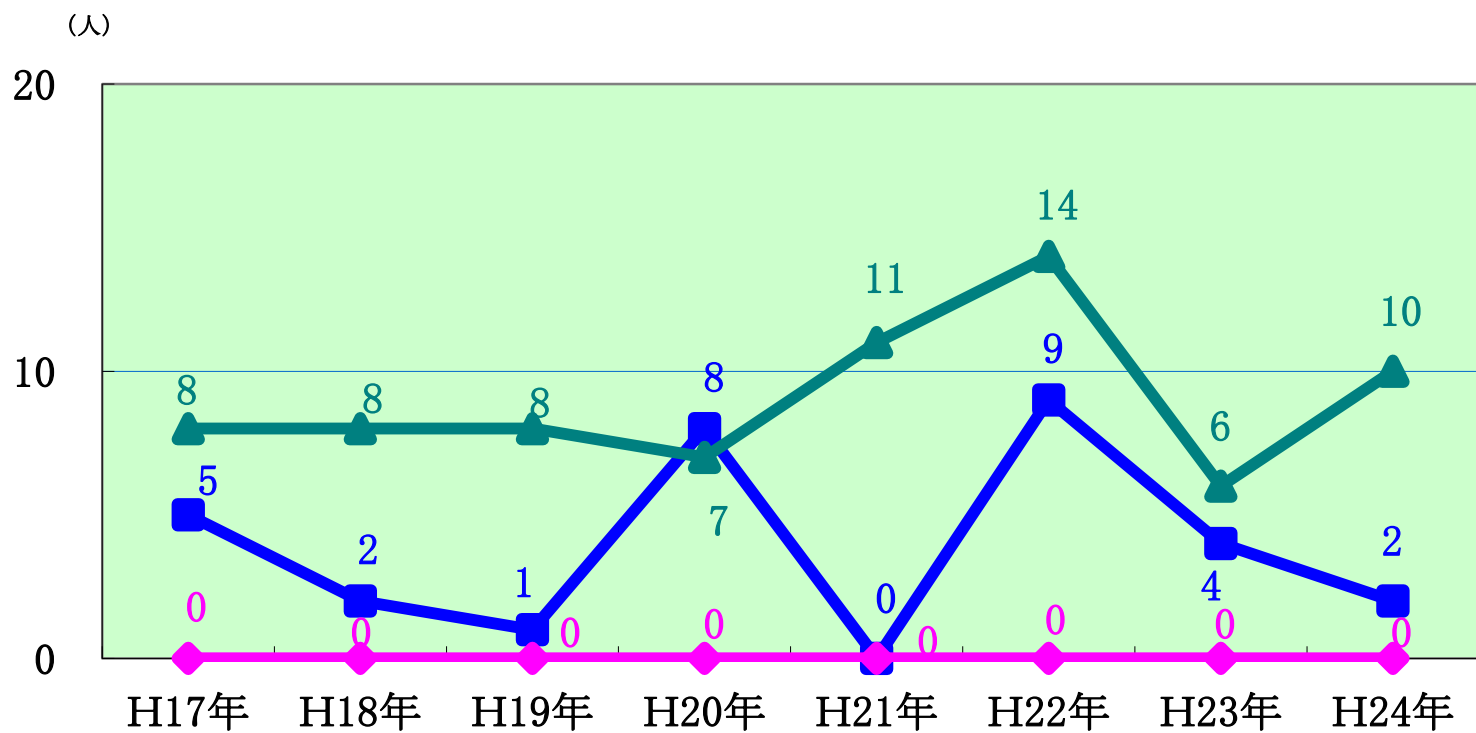
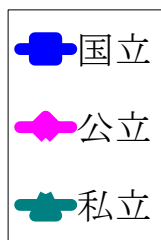
# 退学者 6 年生

50大学 (国立28校 公立2校 私立20校)

(連続データのある大学のみ)



# 退学者 6 年生 学校種別

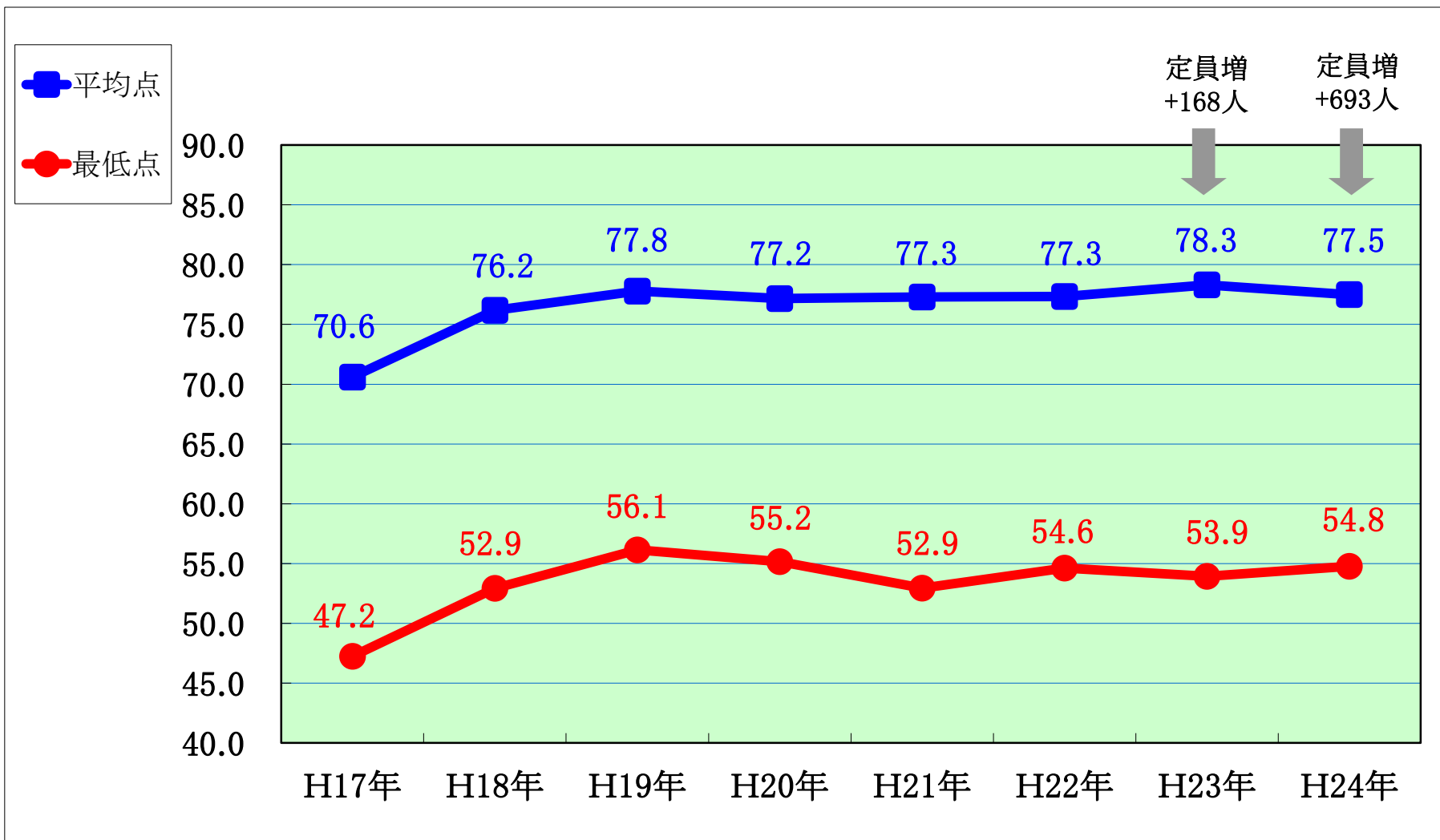




# 共用試験 4 年生 (CBT 平均点と最低点)

72大学 (国立37校 公立6校 私立29校)

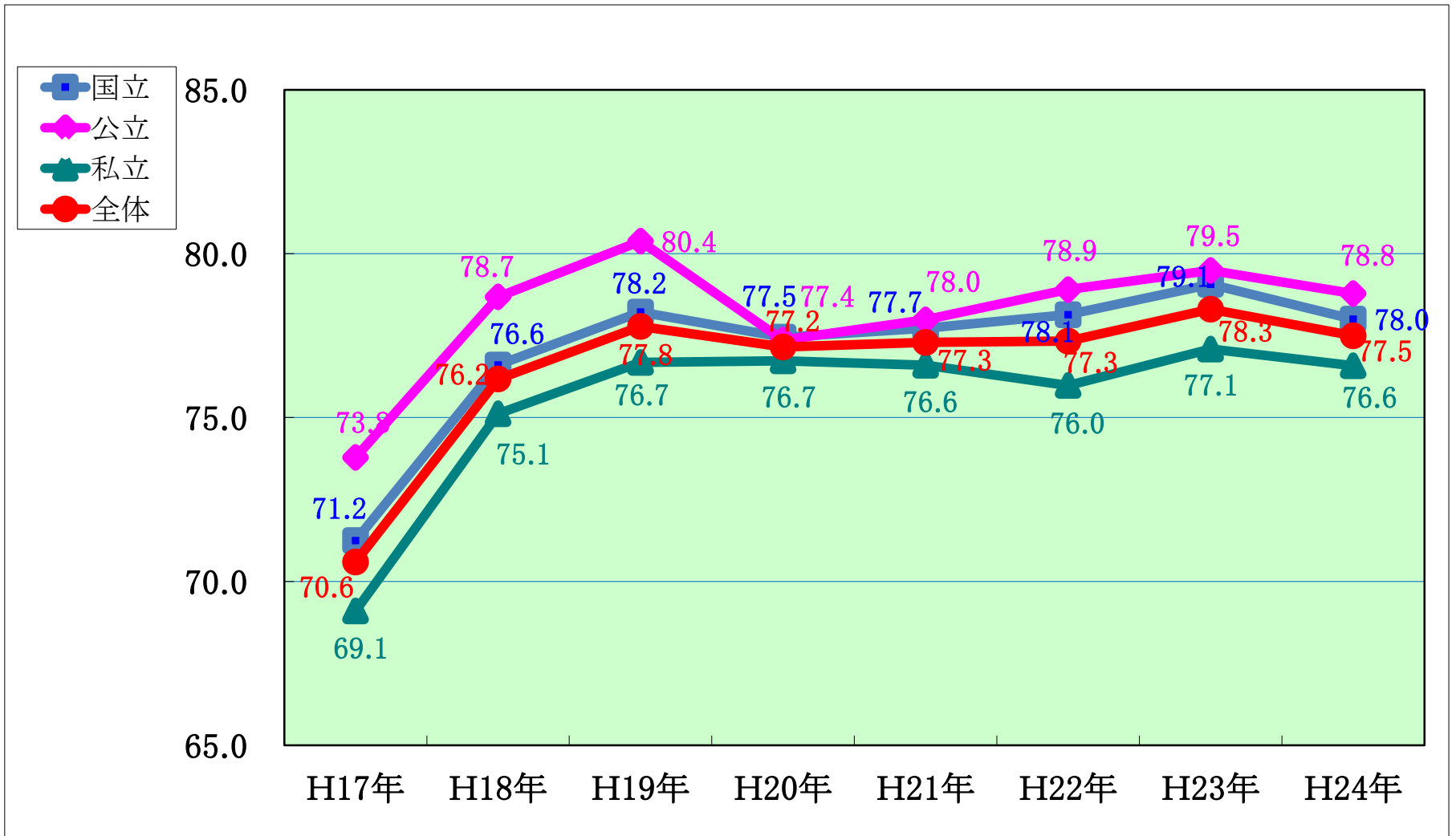
(連続データのある大学のみ)



# 共用試験 4 年生 学校種別 (CBT 平均点)

72大学 (国立37校 公立6校 私立29校)

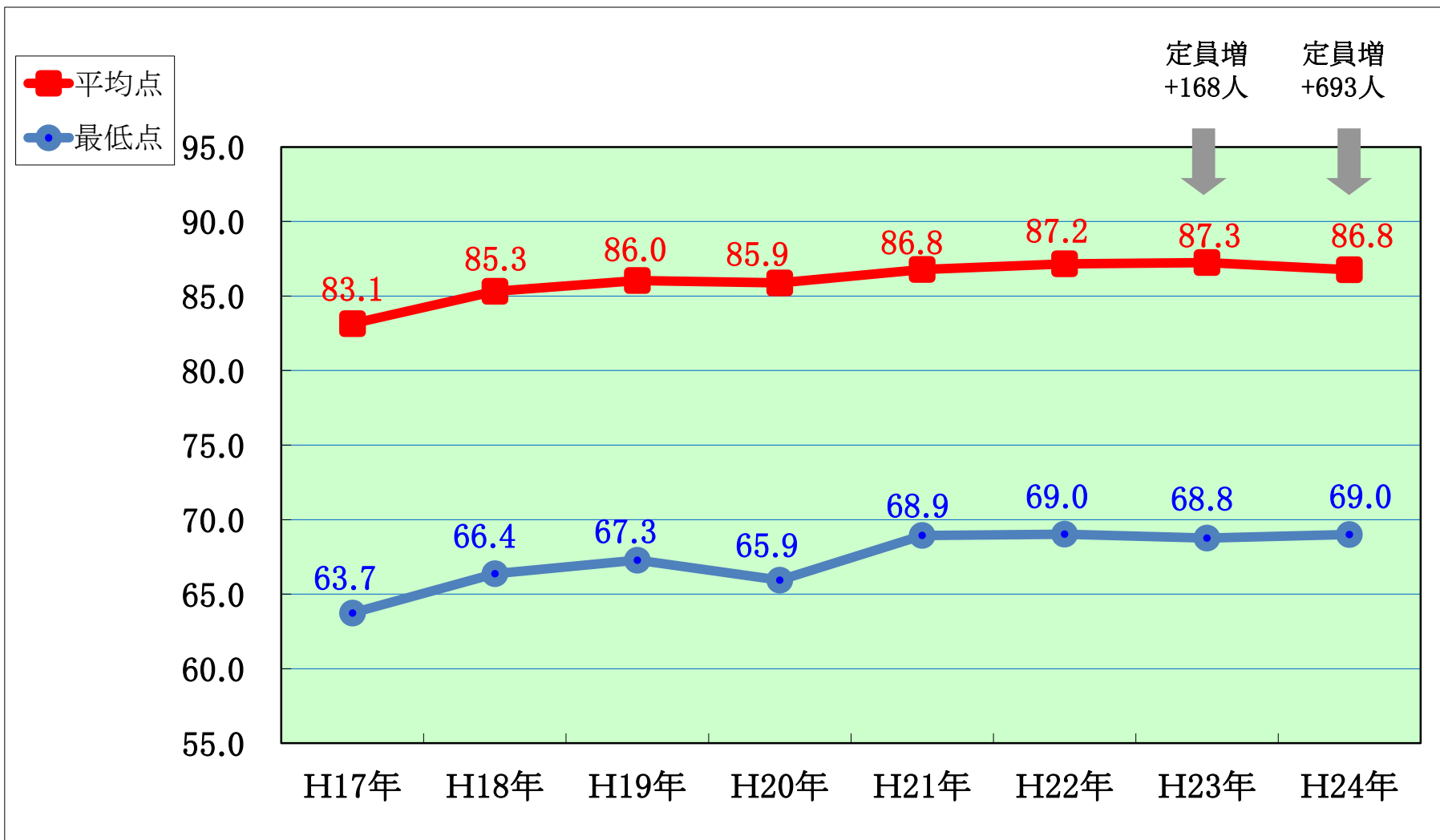
(連続データのある大学のみ)



# 共用試験 4 年生 (OSCE 平均点と最低点)

72大学 (国立37校 公立6校 私立29校)

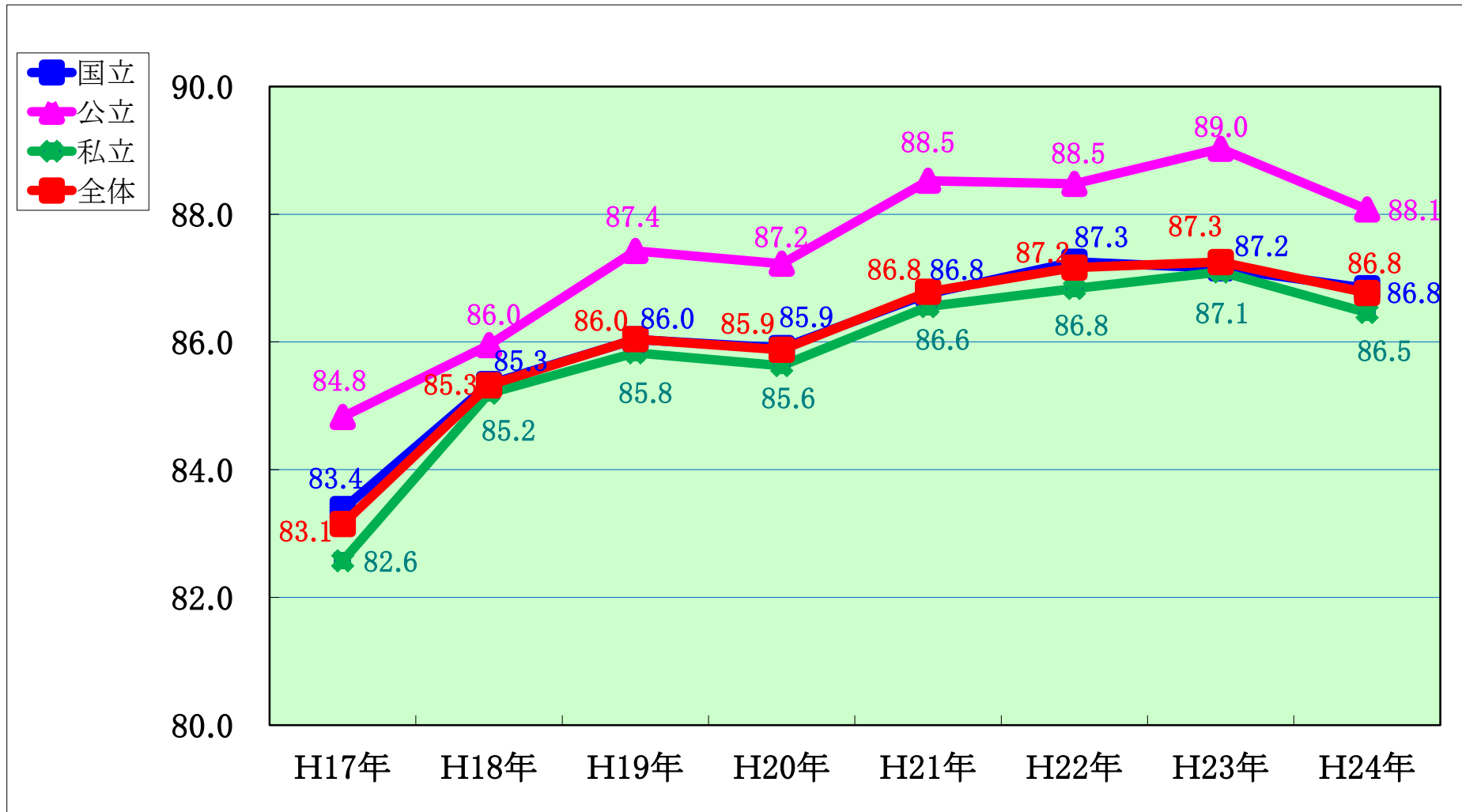
(連続データのある大学のみ)



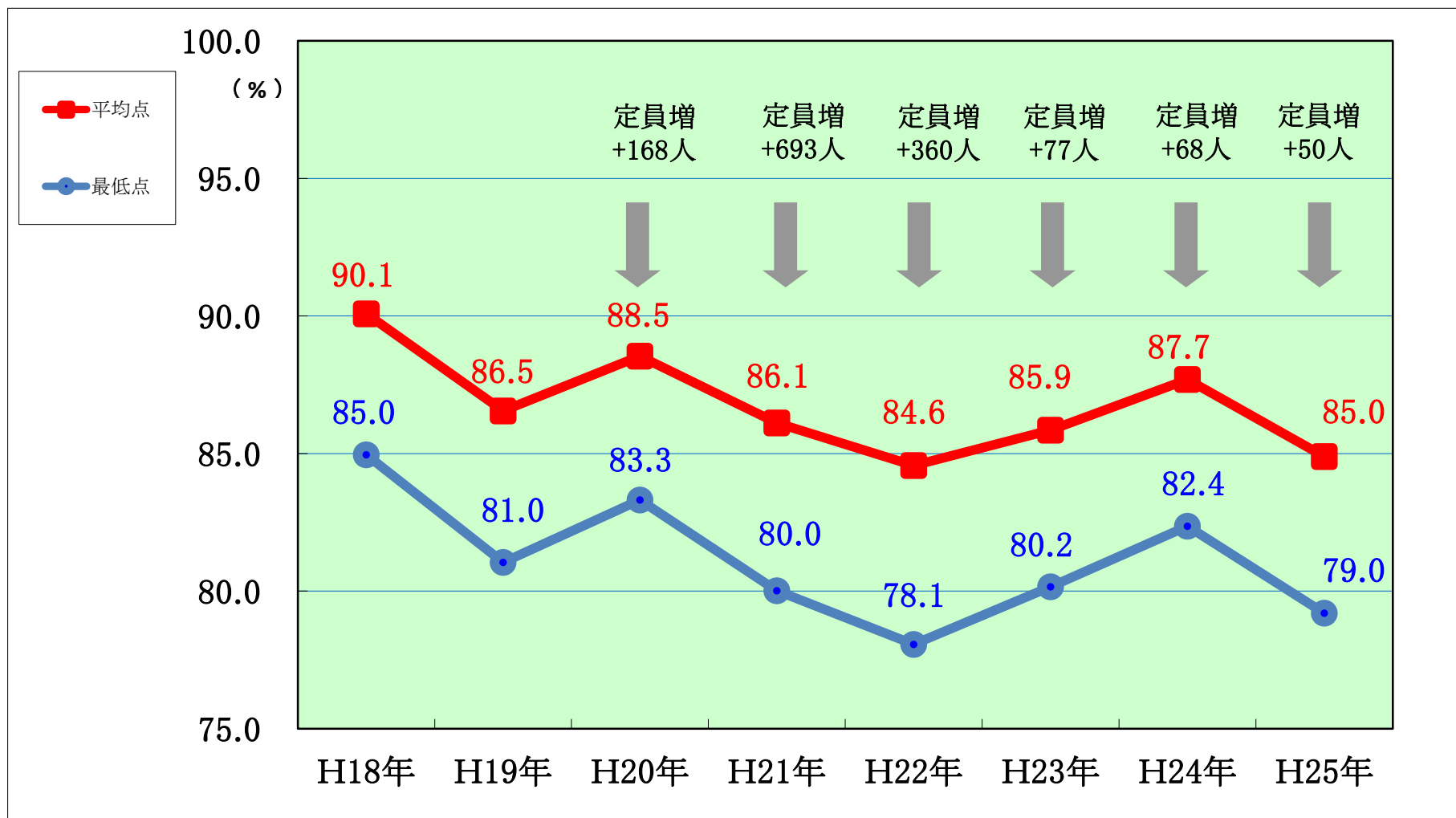
# 共用試験 4 年生 学校種別 (OSCE 平均点)

72大学 (国立37校 公立6校 私立29校)

(連続データのある大学のみ)



# 前期一般入試、最終合格者のセンター試験の平均点・最低点 (H18~24年:31校、H25年:30校)

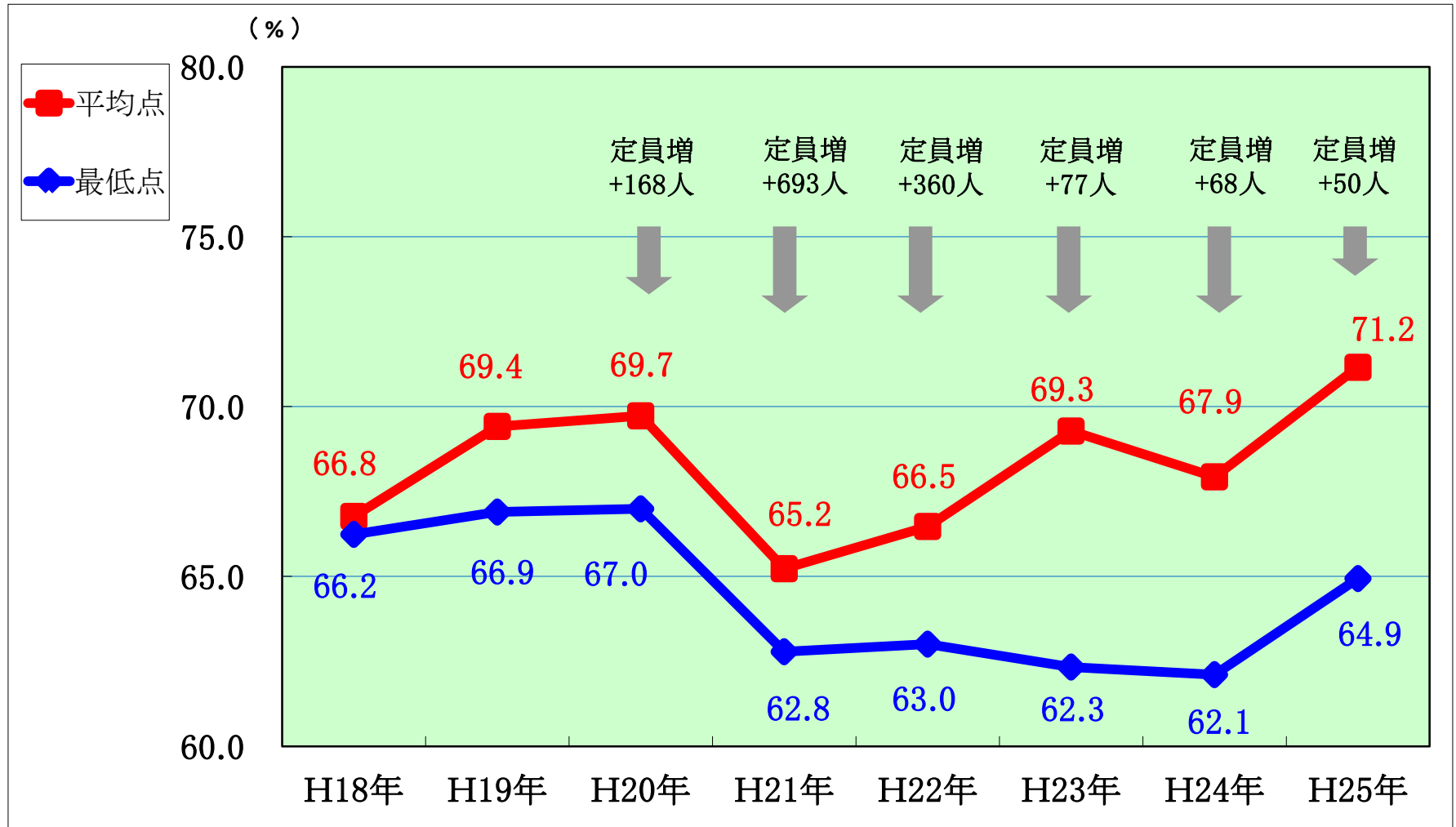


(参考) 主要6教科  
の全国平均

66.0 61.2 62.7 61.4 56.6 61.2 64.7 58.2

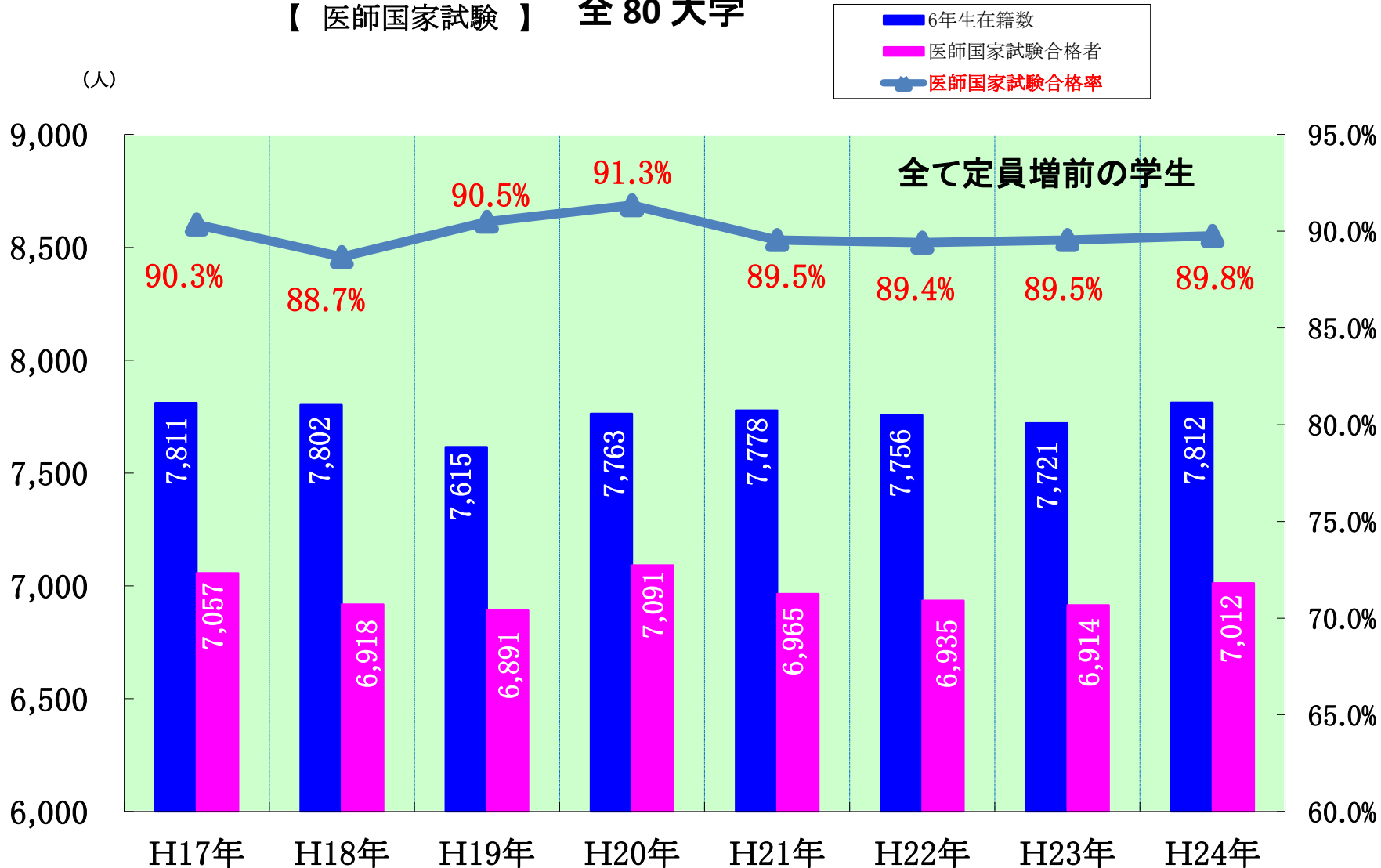
# センター試験を採用していない私立大学の 一般入試最終合格者の平均点・最低点(%)

(H18~19年:6校、H20~25年:7校)



# 4月時点の6年在籍者と翌年3月の国試合格者数・合格者率

【 医師国家試験 】 全 80 大学



# 学力低下についての自由意見（49大学の要約）

1. 学力低下には、① 基礎学力の低下、② 社会規範の欠如（遅刻、欠席、教員の指示に従わない、授業態度不良、呼び出しに応じない、等々）、③ メンタルな問題を抱える、④ モチベーションが低い等、様々な要因が挙げられる。
2. 対応策についての意見。
  - ① 成績下位者にチューター、メンターを付け、学習面・生活面で個別指導を行う(23/49大学)。
  - ② 基礎科目の補習(21/49大学)。
  - ③ 年次毎の達成度チェックと補習授業、国試対策(17/49大学)。
  - ④ モチベーションの向上(体験型実習、研究室配属、英語教育、留学、課外活動など)(15/49大学)。
  - ⑤ 小人数によるグループ学習の推進(7/49大学)。
  - ⑥ 進級判定の厳格化(6/49大学)。
  - ⑦ 授業への出席チェック(2/49大学)。



# アンケート結果のまとめ

1. 在籍学生数は、増加傾向にあるが、高学年の学生数は、増員分をやや下回る傾向にある。特に、2年次で在籍者が滞っている。
2. 留年者は、1-4年次学生で、休学者は、1-2年次学生で、前回調査に引き続いて、さらに増加(留年者は1年、2年次とも有意な増加を認め、留年者、休学者とも経年的に有意な増加傾向を認める)。
3. 4年次学生(4年生まで進級できた学生)の共用試験(CBT、OSCE)の平均点、最低点は、不変である。
4. 6年次学生(全て増員前の学生)の医師国家試験合格者数、在籍者に対する合格者比率は、不変である。
5. センター試験採用の大学における最終合格者のセンター試験の平均点、最低点は、全国の受験者の平均点にほぼ相関している。
6. 大学教員の多くが、医学生の学力低下を実感しており、各大学は、様々な対応策を講じている。

# 結 語

多くの教員が、医学生の学力低下を実感しており、今回の調査でも、引き続き、低学年での留年者、休学者が増加している。

学力以外にも、社会性の乏しい学生や、精神的な問題を抱えた学生など、様々な問題を抱えた学生が増えていることが指摘されている。

今後、少子化の進展により、医学部入学の門戸はさらに拡がることが予測される。これ以上の大幅な定員増、あるいは医学部新設は、医学生の資質の一層の低下を招く恐れがあり、また、教員の負担増も強く懸念される。

引き続き、関係各方面に対し、適切な対応を求めたい。

## (参考資料) 医学部入学定員と18歳人口の推移

	入学定員	18歳人口	18歳人口の 何人に1人が 入学するか?	18歳人口千人 当たりの入学者
S41年	3,560人	249万人	1 / 699人	(1.4 / 1000人)
S56年 (新設医大設置)	8,280人	161万人	1 / 194人	(5.1 / 1000人)
H19年 (削減時)	7,625人	130万人	1 / 170人	(5.9 / 1000人)
H25年 (増員後)	9,041人	123万人	1 / 136人	(7.4 / 1000人)
H42年 (2030年)	9,041人	104万人*	1 / 115人	(8.7 / 1000人)

(\* H24年出生数 104万人)

# わが国の医師数の動き

## — 入学定員8,991人(平成24年度) —

医師数/人口10万人

